

教友

第94号

目次

埼玉大学創基百五十周年に寄せて	坂井 貴文	1
埼玉大学教育学部の将来に向けて…堀田 香織	2	
同窓生としての絆を深める卒業五X周年	同窓会の一層の進展を…松澤 勇治	3
教職支援委員会から…	4	
模擬個人面接を通して、模擬個人面接を受けて…	5	
教採合格者から後輩へのアドバイス…	6	
キャンパスライフ サークル紹介…	8	
創造部・体育会水泳部・書道部・管弦楽団		
キャンパスライフ ゼミ紹介…	10	
身体文化専修 石川研究室		
芸術専修 園工美術分野 石上研究室		
同窓生の広場…	11	
卒業五X周年同窓会報告…	17	
卒業五X周年同窓会開催等案内…	23	
令和五年度教友会事業報告…	24	
埼玉大学ホームカミングデー…	25	
埼玉大学創基百五十周年特別記念講演要旨		
金子美智雄…	26	
令和五年度定期総会報告…	29	
令和五年度教友会役員名簿・学年理事名簿…	30	
事務局だより・編集後記…	32	



埼玉大学創基百五十周年に 寄せて

埼玉大学長 坂井 貴文

今年度のホームカミングデーでは、埼玉大学創基百五十周年を記念して、同窓会顧問金子美智雄先生と図書館長井上智勝先生に埼玉県師範学校と旧制官立浦和高等学校の歴史に関するご講演をいただき大変好評でした。ご講演から明治初期の文教政策に興味を持ったので、少し調べてみました。

まず、文部省が明治四年に設置され、翌年、身分・性別問わずに基礎的な知識の教育を宣言した、現代から見ても開明的な内容の学制が頒布されています。全国に五万校以上の小学校を造ることが計画され、小学校教員の養成が急務となりました。これを受け、埼玉県では明治六年に改正局を設置し、これがのちに埼玉師範学校となり埼玉大学へつながります。こ

の頃は明治になってまだ日も浅く、散髪脱刀令、廃藩置県、新通貨制度、鉄道営業開始、太陽暦の採用など新しい時代に相応しい施策が次々と実行に移された一方で、現在の埼玉県の版図が入間県や熊谷県との分離や合併などで度々変化したことが象徴するように、試行錯誤を繰り返す混乱の時代でもありました。新しい時代が始まる興奮と共に将来が見通せない不安の時代でもあったに違いありません。このような中、教育の理想を追求し教育制度を整えていった先人たちの努力と深い洞察は驚嘆に値します。

近年、明治初期のような大きな混乱の状態をVUCAと呼ぶようになりました。この言葉は、変動性(Volatility)・不確実性(Uncertain-

ty)・複雑性(Complexity)・曖昧性(Ambiguity)の頭文字を採ったもので、変化が激しくて従来の常識や過去からの外挿では予想ができず、様々な要因が複雑に絡み合い対処方法が簡単には見つからない状態を言います。元々は冷戦後に取るべき戦略の複雑性を表す軍事用語だったということですが、最近では災害発生時にも使われ、コロナパンデミック時の社会の混乱を思い返すとVUCAがよく理解できます。一方、現代の世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルとパレスチナの戦闘が象徴する国や民族の分断による紛争の激化、地球温暖化、地球規模での食糧不足などの困難な問題が起きています。加えて、AI、情報、ロボットなどの技術革新による産業構造の変化が進み、今までに経験したことのない変革の時代がやってきています。現代はVUCAの時代に入ったと言えるでしょう。

我が国の教育界も、少子化はもちろんZ世代やα世代に特徴付けられるデジタルネイティブの出現

や生徒を取り巻く生活環境の変化、国際化などから今までの知識や経験を超える質的に異なる対応が求められる、併せて今後のデジタル技術の進歩は教育に大きな影響を及ぼすことは必至で、教育手法はもちろん子供たちに必要な教育の内容容までも変わらざるを得ません。今後、様々な混乱が予想されることから教育の分野もVUCAの時代を迎えていると言えるかもしれません。これらの変化は我々を不安にさせますが、同時にデジタルツールの活用による個々の生徒の学習進度に合わせたきめ細かな指導やe-learningによる個別学習を活用した教育等への展開はもちろん教員の事務負担の軽減を考慮すると、教育界は多くの可能性に満ちているとも言えます。

明治維新後の混乱を海外からの知見も取り入れて現在の教育につながる道を模索した先人たちのように、我々も教育の本質を常に問いつながり、新技術を活用し、次世代の子供たちにVUCAの時代を生きる力をつけていかなければならないと思います。



埼玉大学教育学部の将来に向けて

埼玉大学教育学部長 堀田 香織

今日の社会状況と教員養成

埼玉県では教員の年齢構成上、定年退職が続いたことから、教員需要が減少せず、むしろ教員不足が深刻な状況にありました。しかし、少子化が一層進行しいよいよ教員需要が減少に転じるターニングポイントを迎え、今後十年間で県内の小中学校教員採用募集人数が半減することが予想されています。

そうした中で国立大学教育学部もその在り方が問われています。地方では教員需要の大きな落ち込みから、四国の五国立大学が連携教職課程を、富山大学と金沢大学、宇都宮大学と群馬大学といった複数の大学が共同教職課程を開設しています。首都圏ではそこまでの教員需要の落ち込みはなく、新規採用する民間企業も多いので、教員就職率は地方に比べて低い傾向にあり、文部科学省からはこの教員就職率を上げるよう強く求められています。教員需要の減少予想、そして教員就職率の低迷という状況下で、埼玉大学教育学部は埼玉

県の国立大学として、いかに質の高い教員を安定的に輩出していくかが課題となっています。
共生・ダイバーシティ社会の担い手づくり

今年度、国立大学は第四期中期目標期間の二年目ですが、埼玉大学は「地域人材・グローバル人材育成の教育基盤強化」、「研究力強化と社会的課題を解決するための共創拠点の形成」、「地域のダイバーシティ環境推進拠点機能」、「大学ガバナンス機能の強化」という四つの柱を設けています。そして目標達成に向けた取組の一つに「地域と連携する全学的な教員養成」を位置付けています。

さて、教育学部の第四期中期計画として「附属四校園は、教育学部・教育学研究科と連携・協働して、教育の実践並びに研究に取り組み、『共生・ダイバーシティ社会』の担い手づくりとなる教育モデルを開発・実践する。その成果を教育実践フォーラム等を通じて地域教育界に還元すること、『共

生・ダイバーシティ社会』の実現と学校教育の水準向上に貢献する」ことを掲げています。さらに六つの柱①「性」の多様性②障がい者・高齢者③異なる文化や言語④生命の多様性⑤多様な職業⑥貧困・経済的格差を立てています。附属小学校では、六年生の社会

科の授業「世界の未来と日本の役割」ジェンダー平等を目指す世界と、日本、附属小学校」において、ジェンダー差別を改善するために国連やNGO、日本が協力して取り組んでいること、欧米諸国に比べ日本でジェンダーによる差別が根強く残っていることを理解し、自校の現状に目を向けることで、どうすべきかについて考えるという実践に取り組んでいます。附属中学校では、個に応じた指導とICTの最適な組み合わせを実現した教育実践モデルを発信するとともに、男女混合名簿を用いることや制服のリニューアルに向けた取組が始まりました。附属幼稚園では、多様な園児一人一人のよ

さや可能性を理解するとともに、「性の多様性」や「障がい者」をテーマとした保護者向け講演会などを通して、大人の意識変化へ働きかける取組を行っています。附属特別支援学校では、知的障がいのある児童生徒の社会参加に向けた教育実践を行い、さらに他の附属学校園との連携・交流により多様性の理解を推進しています。

教育学部の将来に向けて

今、持続可能かつ多様性と包摂の社会を実現していくことが求められています。多様な子供たちが協働して学級をつくっていくことの大切さを実感しながら学校時代を過ごしてこそ、いざれ成長してから多様な人を大切にする社会人になることができます。我々は、将来そうした社会の実現を担っていく子供たちを学校で育てていくことのできる教員を養成することを目指しています。そのために、埼玉大学教育学部においてもダイバーシティ環境を推進し、学生も教職員も異なる立場の人間への共感や、差別を敏感に感じ取り他人事にしないう姿勢を高めることに努めてまいりたいと考えております。

今年度は埼玉大学創基百五十周年、つまりは教員養成を始めて百五十周年の年になります。教育学部は受け継いできたバトンを次の世代に届けるべく努めてまいります。



同窓生としての絆を深める 卒業五X周年同窓会の一層の進展を

会長 松澤 勇 治

卒業五X周年同窓会

六学年で開催

令和五年五月八日より、新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同じ五類に移行したこともあり、昨年度は一つの学年でしたが、本年度は六つの学年で同窓会が開催されました。

開催にあたり、学年理事を中心とする実行委員の皆様には、当日に向けてのきめ細かなご準備、お互いの親睦を深め思い出に残るひとときとなるような趣向を凝らしたプログラムの作成や心温まる運営、そして、次回開催を見据えた事後処理に至るまで、大変なお骨折りをいただきましたことに深く感謝申し上げます(報告の詳細は、十七頁から二十二頁を参照)。

私共本会役員も出席させていただき、祝意とともに、大学の現状や教友会の活動状況等について述べさせていただきましたが、卒業二十・二十五・三十五・退職時期・五十・五十五周年と、卒業後の年数は異なりますが、同じ時代を、

同じ大学で共に学び合った仲間としての絆の深さを改めて感じさせていただきました。

ところで、「絆」という文字には、「人と人との断つことのできないつながり。離れがたい結びつき」の意味があり、「家族の絆」、「チームの絆」などと使われます。互いに関わり合う中で愛着が生まれ信頼が深くなり、それが絆となると言えます。

以前、ある方から、「絆とは、糸が半分。人間はどんなに頑張っても、半人前にしかなれない。だから、残り半分は絆の力に頼らざるを得ない」と聞き、なるほど感じ入りました。

「教友会」には、同窓生としての強い絆があります。大学時代は、まだまだ未知数や可能性を秘め、学問と向き合い、交友関係を広げ、人生に幅と深みを持たせる大事な時期であったと言えます。同じ時代を同じ大学で共に過ごした者同士としての絆の力を信じ、育み、これからの大事にしながら進んでいきたいものです。

会報「教友」の紙面の充実と

今後の発行に向けて

本会では、会員の皆様に会の活動内容等をお知らせするとともに、会員相互の交流の一助になることを願って会報誌を発行しておりますが、前号からこれまでの卒業生向け「教友」と在学生向け「学友」を合本し、誌面の一部も刷新いたしました。

卒業生・在学生のそれぞれに有益な内容を掲載するとともに、特に、「今の大学の様子を知りたい」という卒業生からの声に応えるべく、前号から「キャンパスライフ」として、サークル紹介(体育系・文化系)を掲載することにしました。また、日々学生たちは、様々な講義の受講とともに、どのような研究活動に取り組んでいるのかということについて、今号から「ゼミ紹介」を、各研究室の先生方のご協力をいただきながら掲載することにいたしました。今後も、紙面の一層の充実に努めてまいりたいと考えております。

ところで、各大学の同窓会では、会報をホームページに公開し、誰もがアクセスできるようになってきており、埼玉大学においても、教養学部同窓会、経済学部同窓会でホームページに、理学部・工学部においても、各学科ごとに公開しております。

そこで、教友会としても、現在は会報の一部を公開しておりますが、全面公開に向けての検討を重ね、その結果を、本年度の本部常任委員会や総会でご提案申し上げ、ご承認をいただきました。

詳細については、本誌と一緒と同封しました「会報『教友第九十四号』の送付及び今後の送付希望について」をお読みいただきたいと思いますが、主な内容は、次のとおりです。

○紙ベースでの会報の発行は、今後五年間(令和六年度から令和十年度)とし、その後は、ホームページのみとする。

○今後五年間、紙ベースの会報の送付を希望する場合は、同封したはがきで回答する(送付を希望しない場合は返信不要)。

今後も時代の進展を見据え、業務改善の視点(業務内容の整理・統合・精選、事業費の削減等)を踏まえながら各種事業の推進を図ってまいりますので、ご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

(昭和五十年卒)

教職支援委員会から

教採合格に向けての主な取組内容と 支援室の積極的な活用を

一 教員採用試験の全体の動向

教員採用は、比較的長期に渡る採用増加期が止まりつつあり、自治体により採用数の増減が異なる傾向にあります。例えば埼玉県では、全校種を合わせて一七三六名となり、昨年度より二一九名減となっていますが、さいたま市は四〇〇名となり、昨年度より三四名増となっています。

全国的な傾向として、小学校教員採用倍率の低下が顕著となっています(本年度埼玉県は一・九倍、さいたま市は二・二倍)。学生にとっては、比較的教員になりやすいと喜ばしい一面がある一方で、今後の教育界全体を考えますと、教員の質の低下が懸念されます。

このような状況下で、試験日を例年と比べて早期に実施したり、三年生からの一部受験を実施したりするなど、各自自治体は優秀な教員の確保に力を注いでいます。

教職支援委員会ではこれらの動向を踏まえ、採用試験を受ける学生をサポートする様々な取組を行っており、教友会(教育学部同窓会)の協力もいただいています。

二 教友会からの支援

教員採用試験対策「模擬個人面接」

七月十八・二十日の三日間にわたり、ご指導をいただくことができました。面接では小・中・高・特別支援学校の教員を目指す学生だけでなく、養護教諭や幼稚園教諭・保育士を目指す学生にも幅広く対応していただき、本番を想定した面接指導を通して、多くのご示唆をいただきました。

「教員採用試験対策DVD教材」

令和三年度に教友会から教職を目指す皆さんのために、教員採用試験対策DVD教材を寄贈していただきました。本年度も多くの学生が視聴できるようWebClassを通して情報を配信しています。また、教職指導員による教職支援セミナーでも活用しています。

〇視聴できるDVD講座

- ・実力錬成教職教養
- ・直前対策教職教養
- ・小学校全科
- ・教職面接DVD講座
- ・教職論文DVD講座

さらに多くの皆さんが活用し、力を付けてほしいと思います。



三 来年度の教員採用試験対策(予定)

教職支援委員会では、教職支援セミナーとして、一斉指導やクラス別学習のほか、前述の教友会「模擬個人面接」や個別相談など、教員を希望する学生を支援する取組を充実させてきました。これらの教職支援に関する取組への出席率・活用率が教員採用試験の合格を左右するところとなってきています。

以下に、来年度の教員採用試験に向けた取組(予定)を記します。

- 〇二月 外部講師による対策講座及び一次試験対策模擬テスト等の実施(生協企画連携)
- 〇四・五月 各自自治体の教員採用試験要項説明会の実施
- 〇四・七月 教職指導員による前期教職支援セミナーの開催
- 〇四・七月 教師力向上ケーススタディ演習Ⅰ
- 〇七月中旬 教友会の面接員による「模擬個人面接」の実施
- 〇七月下旬・八月中旬 二次試験対策のための個別指導
- 〇十一月 教師力向上ケーススタディ演習Ⅱ、教師基礎力養成演習
- 〇十一月 教職指導員による後期教職支援セミナーの開催
- 〇十一月・十二月 埼玉県・さいたま市他の採用試験説明会や都道府県別指導の実施

四 教職支援セミナーへの参加

教職支援委員会では、論文・面接・実技試験対策等の教職支援セミナーを開催し、教職を志望する学生を支援しています。令和六年度教員採用選考試験においても、これまでと同様、セミナーへの参加回数が多い学生ほど合格率が高い結果となっています。これは、教育及び教職に関する豊かな知識と経験を有する教育実践総合センター教員や教職指導員等の指導のもと、受験生同士が切磋琢磨し、学びを積み重ねてきた成果です。

教職支援セミナーに積極的に参加し、早い時期から継続的に準備をしておくことが重要です。

五 教職支援室の積極的な活用

教職支援の窓口としてC棟二階に「教職支援室」を開設しています。教職支援室では、全国の教員採用試験の情報収集と提供、教職支援室スタッフによる相談などを行っています。また、各自自治体の過去の試験問題集、各教科等の指導書や教科書、各種教育情報誌などの閲覧や貸し出しも行っています。

教職支援室は教職を目指す学生のニーズに沿ったサポートを心がけていますので、積極的に活用しましょう。まずは気軽に足を運んでください。

模擬個人面接を通して

～面接指導員からの、ワンポイントアドバイス～

教友会では、学生支援事業の一つとして、教友会推薦の面接員による「模擬個人面接」を、教員採用二次試験前に実施しています。本年度は、七月十八・十九・二十日の三日間行いました。

模擬個人面接終了後、各面接員から出されたアドバイスの主な内容は、次のとおりです。

○「入室から退室まで、すべて見られている」という自覚をもち清潔感のある服装・身だしなみ(髪型・長さを含む)、節度のある振る舞い(リュック等を背負って入室しない等)に気を付けたい。

○質問内容に正対して、簡潔・明瞭に自分の言葉で答える(姿勢、明るい表情、声の大きさ、間の取り方、面接官への視線にも気をつけたい)。

声が小さい、早口等は、意識すれば短期間でよくなるので、日常生活の中でも意識したい。

○知らないことは答えられないし、あいまいな理解では、自信をもつて答えることはできない。特に、教育時事に関する内容(生成AIへの学校としての対応等)については、その内容だけ

ではなく、ねらいや実施上の課題等についても自分の言葉で答えられるようにしたい。

○大学推薦者は一次試験を免除されているとはいえ、教職教養・教育関係法規等、基本的な内容の理解に努めておきたい。

○自分が受験する自治体の求める教師像や教育施策についての理解を深めるとともに、なぜその自治体を志望するのかの理由を事前に明確にしておきたい。

○自己紹介の内容とともに、それに関連した質問を想定し、その答えも事前に準備したい。

○特別支援教育関係については、校種を超えて出題される傾向がある。「インクルーシブ教育」「支援学習」など基本的な内容についての理解を深めたい。

○保育士志望者でも、地方公務員法の基本的な内容の理解に努めたい(地方公務員になるという意識)。

○限られた時間の中でも、教師としての適性や自分の良さ等を最大限アピールできるようにしよう。

模擬個人面接を受けて

～実際の面接で役立ったこと等～

心理教育実践学専修 水島 雅

社会専修 倉澤 麟太郎

私は模擬個人面接で、試験当日のような緊張感を味わうことができ、試験当日は落ち着いて試験に臨むことができました。面接試験は、色々な人とたくさん練習し場数を踏むことが大切だと思います。

私は、大学のクラス別セミナーや他大学の学生との勉強会に参加したり友人と一緒に練習したりと、たくさん練習をしてきました。

模擬個人面接は、本番に近い環境で行うため、緊張します。仲間同士で練習してきた成果を発揮する機会になり、本番のような緊張感で受けることができたので、とても有意義な時間となりました。

また、面接官の先生は教育現場で活躍されていた方であるため、現場経験を踏まえたアドバイスをくださいます。学生同士での練習では得ることができなかった情報や考え方を知ることができたため、教授だけではなく今後教員になった際にも役立つと思います。

教授の勉強は大変なことも多かったのですが、先生方や周りの仲間を支えられ、合格できました。皆さんも夢に向かって頑張ってください。応援しています。

私は教員採用試験に向けて、大切にしていくことが二つあります。一つは実体験を伴う学びを積み重ねていくことです。教育実習を始めたとした現場での経験のおかげで自分の教育観を確立させ、そこで得た学びによって自分の思いに説得性をもたせることができました。

二つ目は、教員を目指す友人との関わりを大切にするということです。客観的な意見をもらえることに加えて、他者の考え方に触れることで、自分の考えに厚みが増します。また、仲間がいることで本番に向けてのメンタルケアにも繋がります。心強かったです。

ただ、友人との面接練習は慣れも出てきて、緊張感がなくなってしまうがちなので、本番に近い環境で練習する機会も大切です。そのような場として、模擬個人面接は大変有効です。本番同様のよい緊張感をもって経験することができました。そのおかげで、緊張しすぎず本番に臨めたと思います。

自分に自信をもって、教員採用試験に向けて全力で頑張ってください。皆さんと働ける日を楽しみにしています。

教採合格者から後輩へのアドバイス

〈小学校①〉

教育学専修 鈴木一平

私が小学校教員採用試験に合格できた要因は二つあると感じています。

一つ目は、周囲の人々の存在です。同じ大学の友人だけでなく、他大学の友人とも教育に関わる情報の共有や面接練習を多く行ったことで様々な視点から学ぶことができました。また、大学の実務家教員の先生方には何度も論文の添削や面接練習をしていただき、回数を重ねることに自信をつけることができました。

二つ目は、学校現場での経験です。私は大学二年生の頃から採用試験に合格した今も、地域の公立小学校で学習支援ボランティアをしています。現場で活躍されている先生方の授業や、児童間のトラブルの対応など、日々学ぶことが非常に多いです。埼玉県の面接では実際の場面を想定した声掛けや指導内容について問われますが、子供と関わった経験が多いほどより中身のある充実した受け答えができる実感しています。

多くの人から積極的に学び、仲間と協力し支え合いながら試験勉強を進めてください。皆さんの合格を心から願っています。

〈小学校②〉

特別支援教育コース 近藤 梨乃

私は夢講座生のため、小論文と面接での受験でした。そこで、特に面接対策で力を入れたことを紹介します。

一つ目は、アシスタントティーチャーの活動です。受験したさいたま市では、教科指導や場面指導などリアルな質問が多いため、学校現場での学びを大切にしています。子供や先生方とのやりとりを通し、場に即した対応や指導を学ぶことができ、回答に説得力をもたせることができましたように思います。

二つ目は、様々な人と面接練習をすることです。私は、教職セミナー、個別相談、夢講座と大学推薦との合同練習、友人企画の面接練習、家族との練習など多くの人と練習を重ねました。私は面接が大の苦手でしたが、徐々に苦手意識が減り、それなりの自信をもてるようになりました。面接は場数を踏むことが鍵だと思います。

「教員採用試験は団体戦」これは、先生方が口を揃えておっしゃることです。教員採用試験を通して、私はこの言葉の重みを実感しました。みなさんが希望の進路に進めるよう応援しています。

〈中学校①〉

言語文化専修英語分野 小林 葵

「先生になる」という夢を実現するために、私が採用試験対策で重要視したことは二つあります。

一つ目は、実体験を伴う学びを大切にすることです。「かがやき教師塾生」のため一次試験は免除されましたが、その分学校実習に真剣に取り組みました。毎週の実習で教育現場の実態を学ぶと共に、授業実践では自身の専門性を向上させるべく、念入りに教材研究に励みました。継続的に教育現場に関わることで、採用試験に必要な知識と、教師になってから必要な力を身に付けることができました。

二つ目は、仲間との対話を大切にしたことです。面接練習で質問されたことや、論文対策で分からなかったことなどを仲間と共有し、一緒に勉強しました。また、集団討論の練習を他大学の人も一緒に行いました。仲間との情報共有を充実させたため、自分にはなかった視点を獲得することができました。

採用試験を通して、同じ夢をもつ沢山の仲間に出会うことができました。机に一人で向かう試験対策だけでなく、自身の体験や他者との協働を充実させたことが良い結果につながったと思います。みなさんも仲間と共に、最後まで諦めずに頑張ってください。応援しています。

〈中学校②〉

自然科学専修理科分野 川越 皆輝

私が教員採用試験のために取り組んだことを二つ紹介します。夢講座を受講し一次試験免除のため主に二次試験向けの取組となりました。

一つ目は、個人での取組です。公的な文書については、基礎的な知識と国や自治体の動向を知るために意識的に読み込みました。その知識は、小論文や面接に臨む際の基盤になりました。教科の専門知識については、教科書を使い、高校の基礎科目までの内容は説明できるようにしました。実際の面接では、高校の基礎科目の内容も問われました。

二つ目は、仲間との取組です。八つの大学の夢講座の有志が集まり、週に一、二回面接練習を行いました。仲間と学び合うことで、自分にはない考え方や実践を知る機会になりました。また、練習と振り返りを重ねることで面接への自信がもてるようになりました。同じ志をもつ仲間と切磋琢磨したことは心強く、貴重なものでした。私が教員採用試験に合格できたのは、支えてくれた人や仲間の存在が大きいのです。セミナーや個別相談など大学の教職支援にもお世話になりました。皆さんも支えてくれる人や仲間を大切にしながら、夢が実現するよう願っています。

〈高等学校〉

自然科学専修数学分野 西村 尚輝

私は埼玉県の高等学校の教員採用試験を受けました。この経験を踏まえ、皆さんに微力ながら対策についてお伝えしようと思います。

一次試験に関しては、過去問や問題集を繰り返し行いました。私は専門科目に日頃から触れていたため、あまり勉強時間を確保しませんでした。しかし、時間を確保すべきだと思います。また埼玉県は一般教養の問題の比重が高くなっているため、過去問演習の量が高得点への鍵となります。

二次試験は、小論文・集団討論・個人面接・集団面接と多様な試験

方式ですが、試験突破に必要である大事な要素が二つあります。「教育者としての核となる信条・考えをもつこと」、「落ち着いて余裕のある言動をとること」です。これらを意識して普段の練習及び試験に取り組むことが重要です。面接練習などでは面接官からの質問とそれに対する返答を想定するという練習がよくありますが、個人的には相手の質問に対して即座に意見を述べる事が出来る状態にしていくことを第一にするべきだと思います。

自分の将来に関することで不安な気持ちでいっぱいだと思います。最後まで諦めずに努力し続けてください。応援しています。

〈特別支援学校〉

特別支援教育コース 永野 遥

私が教員採用試験当日まで取り組んだ学習の中で、特に効果的だったことを紹介します。

まず、情報収集です。受験する自治体の教育理念や施策、最新の教育ニュースを確認します。そうすることで、自身の考えと教育課題を結び付けて述べる力を身に付けることができました。

次に反復学習と仲間との面接練習を並行して行うことです。例えば論文対策では、時間感覚と論文の型に慣れるために、同じテーマの論文を複数回書くようにしました。具体的には、論文添削後に時間制限を設けずに再度書き、さらに数日空けて書く、という方法を繰り返ししました。また、面接対策では、複数の教授対策グループを活用し、練習を積み重ねました。様々な人と練習することで、視野が広がり、自分を客観視することができ、練習後は、質問内容や自分の回答を振り返り、確認すべき事項をリスト化し、参考書や自治体の資料等で調べ、ノートにまとめる作業を続けました。

試験にあたり、不安な気持ちを抱いている方もいるかも知れません。しかし、多くの人との関わりを大切に、繰り返し練習を積み、きつと大丈夫です。夢に向かう皆さんのことを応援しています。

〈幼稚園〉

乳幼児教育コース 佐野 凜花

特別区公立幼稚園の採用試験に向けた私の取組を紹介させていただきます。

まずは過去問と教職支援室にある資料から情報を集めました。一次試験の筆記は、幼稚園教育要領を読み込むことと過去問で対策をしました。論文は、過去問を解き、セミナーの先生にご指導いただきました。その過程で自分の保育観や教師観について再度考えたことは自分にとって大きな学びでした。また、ある程度型を固め、本番時間内に書き終えることを意識しました。二次試験の面接は、私

なりの言葉で伝えられるよう、定番の質問を中心に自分の考えをノートにまとめました。面接は苦手意識があったので、これだけ練習したから大丈夫と思えるまで先生方にご指導いただきました。弾き歌いは、とにかく楽しく歌うことを意識し練習しました。模擬保育は、セミナーの皆の前で本番と同じように練習をさせてもらいました。恥ずかしさもありますが、目の前に子供たちが居ると想像することが重要だと思います。

これから沢山の子供たちと出会えることを楽しみに、息抜きを大切にしながら、皆さんのもつ力を出し切ってください。応援しています。

〈養護教諭〉

養護教諭養成課程 関口 陽弓

養護教諭の教員採用試験に向けて特に取り組んで良かったと感じたことを紹介します。

まず、一次試験対策では参考書や過去問に諦めず向き合いました。問題を繰り返し返し解き、基礎的な力と自信をつけることが合格への一番の近道だと思います。苦手な部分や頻出問題をまとめたノートを作成し試験直前に確認することで気持ち落ち着かせました。

二次試験対策では多くの人の力を借りながら取り組みました。小論文や面接は正解がなく一人では壁にぶつかってしまいます。友人や先生方に見てもらい具体的な改善点や自分の良い点を知ることによって成長することが出来ました。自分なりの健康観や養護教諭になりたい思いをもつていても、言葉にして相手へ届けるのは非常に難しいことです。面接でも小論文でも伝える相手がいることを常に意識し練習することで言葉選びや面接態度の向上につながると感じます。

試験に向けて勉強している間、人と比べて落ち込むことも多かったですが最後まで頑張る勇気をくれたのも努力し続ける仲間でした。積み重ねた力は必ず自分の財産になります。私も勉強し続け素敵な養護教諭を目指します。一緒に頑張ります。応援しています。

キャンパスライフ サークル紹介

体育系

交剣知愛

剣道部

塚本 晃大

(教育学部自然科学専修理科分野四年)

私たち埼玉大学剣道部は、週五日、埼玉大学の第一武道場で活動しています。令和五年度の部員数は、二十六名です。中学・高校から続けてきた学生もいれば、数年前に剣道を再開したという学生もいます。部としての目標と個人目標を掲げ、自分たちで練習内容を考えて仲間と切磋琢磨し、稽古に励んでいます。

埼玉大学剣道部の特徴として、周辺地域や他大学との交流が盛んなことが挙げられます。一月には近隣の小中高生だけでなく、関東周辺の地域から多くの生徒・学生を受け入れ、三百人規模の寒稽古を行っています。また、全国教育系大学剣道ゼミナールでは、日本各地の学生と稽古会や剣道大会・ゼミナールを開催します。学生として己の技術を向上させるだけでなく、指導者としての資質・能力を身に付けられるのも、この部活動の大きな特徴です。さらに、剣道を学びたい留学生の受け入れも行っています。剣道の技術だけでなく、礼法や日本独自の考え方を

伝えることで互いの文化の違いやそれぞれのよさに気付けます。

私たちは、関東学生剣道選手権大会並びに関東学生剣道優勝大会では全国大会出場を、関東甲信越大学体育大会(以下、関甲信)では優勝を目標としてきました。また、各個人としては昇段を目標とし、稽古に励んできました。全国大会への出場は叶いませんでした。関甲信では団体三位入賞、また昨年度は個人優勝(高橋)することができました。全国大会まであと一步のところでした。という課題が明確となりました。

この悔しさを忘れずに稽古に励み、更に上のステージで戦えるよう稽古に励んでいきます。

最後になりましたが、先生、先輩方、今後ともご指導・ご支援の程、よろしくお願いたします。



幹部交代式の集合写真

最高の仲間と共に

体育会水泳部

平澤 晴太

(教育学部自然科学専修算数分野三年)

埼玉大学体育会水泳部は、週五日、夏季は埼玉大学のプールで、冬季は近隣のプールをお借りして活動しています。選手とマネージャー計二十二名が力を合わせ、「No pain, no gain」をスローガンに掲げて、練習に励んでいます。

本年度の目標は、六月に開催された東部地区国公立大学選手権における、団体五位以内入賞でした。私たちは、部の運営を行う幹部の三年生を中心に時に意見をぶつけ合い、この大会に向けて毎朝六時半から行われる朝練に全力で取り組む準備をしました。迎えた試合当日、二十二名の部員全員が持つ力を全て出し切り、団体四位の好成績を残し、部の目標を達成することができました。信頼する仲間と互いに高め合い成し遂げることで格別の思いでした。

また、八月に新潟で開催された全国国公立大学選手権水泳競技大会には十五名、東京で開催された日本学生選手権水泳競技大会には一名が出場しました。全国の舞台で輝かしい結果を残すことはできませんでしたが、貴重な経験をすることができました。今夏、集大成の神奈川にて開催された関東甲信越大学体育大会では、男子総合三位の好成績を収めました。

埼玉大学水泳部には水泳に本気で向き合う最高の仲間がいます。学生中心に部を運営することの難しさもありますが、部員一人一人が自分の与えられた役割を確実に果たし、チームに貢献しています。水泳でスタート台に立つのは一人です。しかしそこには、今までの部員全員の思いや努力が詰まっています。一人では得られない、チームだからこそ得られるものがたくさんあります。

今年度の反省を生かし、来年度は更なる飛躍を目指します。水泳部はこれから最も高い仲間と活動できる時間を大切に、自己ベストの更新とチーム目標の達成に向け、切磋琢磨していきま



全国国公立大学選手権水泳競技大会の集合写真

キャンパスライフ サークル紹介

文化系

伝統を受け継ぐ

書道部

荒開 響

(教育学部芸術専修美術分野二年)

こんにちは。埼玉大学書道部です。四年生三名、三年生一名、二年生二名、一年生七名の計十三名で構成されており、現在は一・二年生を中心に月・水・金の週三回を目安に活動しています。

私たち書道部は、全員が足並みをそろえて同じことをやるというスタイルではなく、自分のやりたい書体をそれぞれのペースで自由に探究していく形で行っています。

ここ数年は部員数が減り、活動もペースが落ちていましたが、本年度から活気を取り戻してきました。OBの先輩方が活動の様子を見に来て指導してくださるお陰で、コロナ禍の活動縮小を経た現在でも、書道部の伝統を受け継いで活動を続けることができています。

書道部の主な活動としては、年二回の大学内書道展、公募展への出展、むつめ祭での書道体験指導と書道展、他団体から依頼を受けた看板の作成、中学生への書き初め指導、夏合宿などを行っています。夏合宿はコロナ禍明け初めての開催でしたが、五体臨書や大字

作品の制作など、いつもの練習ではできないような作品を制作することができ、非常に実りのある有意義な活動となりました。また、

親睦会も含めていたため部員同士の仲も深まり、その後の活動の雰囲気築くよい機会となりました。

本年度は積極的に公募展に応募し、優秀な成績を残せるように部員同士で切磋琢磨しながら努めました。

書道展は部員それぞれが高めてきた書の腕を披露できる場なので、できるだけ多くの人に見ていただきたいです。これからも定期的に開催していく予定ですので、お時間のある方は是非足をお運びください。



部員がむつめ祭スローガンを書く様子

音楽で繋がる

管弦楽団

発出 千晴

(教育学部心理・教育実践学専修三年)

こんにちは。埼玉大学管弦楽団(通称・埼玉大オケ)です。はじめに、管弦楽って何?と思う方も多いのではないのでしょうか。管弦楽とは別名オーケストラとも呼ばれ、ヴァイオリンなどの弦楽器があるのが特徴です。

私たちは、主に春と冬の定期演奏会を大きな目標として日々活動しています。二〇二三年は、数年ぶりの開催となった春夏の合宿やバーベキューに加え、埼玉大学の学園祭である「むつめ祭」にも参加するなど、活動の幅が大きく広がった二年となりました。また、公共施設からの依頼演奏の機会も増え、地域に根差した活動もできました。

特に、定期演奏会に向けては、よりよい演奏を目指して指揮者と奏者が一丸となって練習に取り組みます。クラシックには何百年も前の作曲家が残した数多くの名曲がありますが、一人一人の音が美しいハーモニーを生み出すときの楽しさや、一つの曲になったときの感動、それらを観客の皆様と共有できることの喜びは合奏ならではのものだと思います。埼玉大オケの魅力は、なんと言っ

ても団員同士の繋がりが強いところ。当団には、経験者のほか、吹奏楽部出身者や大学から楽器を始めた初心者、他大学の学生など、様々なバックグラウンドを持った団員が在籍しておりますが、先輩後輩の垣根を越えて和気あいあいと活動しています。その繋がりは卒業後も続き、演奏会のエキストラとしてOB・OGが一緒に演奏してくださるだけでなく、OB・OG主催のオーケストラ団体も多数存在しています。

最後になりますが、日頃より私たちの活動を支えてくださっている全ての皆様に感謝申し上げます。これからも皆様にも素敵な演奏をお届けするとともに、音楽を通じてクラシックの魅力をお伝えできるよう、団員一同励んでまいります。今後とも埼玉大学管弦楽団をよろしくお願いたします。



第103回定期演奏会

キャンパスライフ ゼミ紹介

見て、経験して、考える

身体文化専修 石川研究室

四年 大山 奈央

身体文化専修には六つの研究室があり、その中の石川研究室では、主に「保健体育のよい授業とは？」について学んでいます。そのため、将来教員志望の学生が多く所属しています。

三年次には、まず、文献を読んだり授業の映像を見たりし、体育のよい授業のポイントをおさえました。その後、学んだことを活かして一人一人が模擬授業を行いました。選択した領域や対象学年はそれぞれ異なるため、教員役以外の学生は児童・生徒役として、多様な種目の授業を体験することができました。そして、各模擬授業後には、良い点や改善点を出し合い、よりよい授業に向けて再度熟考しました。

四年次には、卒業論文の執筆に取り掛かりました。まずは保健体育の授業に関する題目を各々決め、五月から執筆に向けて調査を開始しました。研究の目的や読んできた先行研究などについて毎回の授業で報告し合い、質問やアドバイスをし合いながら研究の内容を定めていきました。また、前期には教員採用試験の勉強もゼミ生同士、励まし合いながら行いました。面

接練習をしたり、問題を出し合ったりしながら切磋琢磨し、目標に向かって突き進みました。

特に三年・四年の二年間を通して、石川先生に同行し、県内小・中学校の研究授業に数多く参加することができました。現職の先生方がどのような授業を行っているか、子供たちはどのような授業に取り組んでいるのか等を見て学ぶことができました。

このゼミの魅力は、一人一人が主体的に取り組む姿勢をもったうえで、仲間と高め合うことができることです。見たもの、経験したものをそのままにせず、そこから良い点や改善点を考え、仲間と共有しています。そのため、自分の考えや価値観を広げたり、授業づくりの引き出しを増やしたりすることができます。また、ゼミ以外でも保健体育講座の先生方から手厚いご指導をいただくことができ、学べることは非常に多いです。

目標としてきた教職に近い将来就いた時には、ゼミで学んだ授業づくりや声掛け等を活かすとともに、日々学び続け、子供の実態に適したよい授業を行っていききたいと思っています。



アートワークシヨップを通じて
芸術専修 図工美術分野 石上研究室

四年 赤沼 浩太

石上研究室では様々なアートワークシヨップに取り組んでいます。そのため研究室に入ると、もれなくそのお手伝いをする事になります。そこで本稿では先日行った「埼玉・藝大協働プロジェクト『サイトシーイング・バスカメラ』によるカメラ空間体験バスツアー」の様子を紹介していきます。

この取組は「さいたま国際芸術祭二〇二三」の企画の一つで、さいたま市在住のアーティスト佐藤時啓さん(東京藝術大学教授)が中心となっており、埼玉大学と東京藝術大学の学生が協働して実施したアートワークシヨップです。内容はピンホールカメラの原理を用いてバス自体がカメラとなったバスカメラによるツアーと、その原理を理解するために段ボール箱で簡単なピンホールカメラを作る活動の二部構成となっています。

バスカメラとは、目張りして中を真っ暗にしたバスに、小さなレンズを通して外光が入るようにし取り入れた光がバス内部に張ったスクリーンに当たることで、外の景色が上下逆さまな映像として映し出される仕掛けです。更にバスが走行することで映像が動画とな

って進行方向と逆に動き出します。映し出される映像が逆さまな状態で動くことで、とても不思議な感覚に襲われました。特にバスが曲がる際には、更に面白い動きを見せるので、より多くの方々に体験してほしいと思いました。

続く創作活動では段ボール箱と虫眼鏡を使ってピンホールカメラを作りました。箱の外側に虫眼鏡を固定し内側に半透明の紙を張ることで、そこがスクリーンとなり外の景色が映し出されます。人によつては段ボールの外側にデコレーションをして、各々オリジナルのカメラを作っていました。参加者は大人から子供まで多岐にわたつていて、それぞれが思い思いの楽しみ方を満喫していました。

手伝った私たち(大学生)は、添乗員としてバスカメラの解説を行いながらツアーに同行したり、段ボールがうまく加工できない子供たちへの支援をしたりしました。東京藝術大学の方々とは初対面でしたが、すぐに打ち解けて一緒に活動することができました。

このように石上研究室ではアートワークシヨップ等の活動を通じて、様々な人々との交流を果たしています。それぞれが多様な活動で一筋縄ではいきませんが、何れも教員としてのスキルを磨くよい機会となっているように感じています。



同窓生の広場

回想

中野 茂

私の十代は、夢中で駆け抜けていった時代かなと思います。

当時は自然が豊かで、四季おりおりの季節に合った遊びを創意工夫した集団遊びが中心でした。又疎開して来られた友だちとの出会いもありました。食糧難の時代であつたので食べられるものは何でも食べました。戦後復興はめざましく、子供たちの生活環境もさまざまでありました。

私の二十代は真剣に将来を考えてた時代でした。教員採用試験が初めて実施されたのは一九五七年(昭和三十二年)でした。当時教員養成の大学に在学しているわれわれに教員採用試験を実施することとはどういうことなのか、そんな議論もされていきました。

殊に卒業の式辞の一部分だけは記憶しています。それは、就職したならば十年はその職場に勤めなさい。そうすればその職場には、いなくてはならないような人になるという、非常に意味深い話でありました。

もう一つ、新任教員研修会に参加したときのこと。これは、とりわけ忘れられません。

「紅い夕陽が ガードを染めて
ビルの向うに 沈んだら 街にや
ネオンの 花が咲く 俺ら貧しい
靴みがき ああ 夜になっても
帰れない」

これはご存じの宮城まり子の歌つた「ガード下の靴みがき」です。一九五五年(昭和三十年)頃にヒットした曲です。

新任教員としての緊張感、これからの教職への道を歩む不安等を抱きつつ、このレコード鑑賞から研修が始まったのは圧巻でありました。

戦後復興の狭間に取り残される戦災孤児の未来に、夢や希望を託す時代でもあつたように思います。さまざまな生活環境に置かれていく子供への理解を促す意図を伺うことができます。新任教員としての心得として、どの子にも光と幸せをとという願いがあつたと思います。

どの年代もあつという間に過ぎていきます。行きたい場所があるなら行つたほうがいい。会いたい人がいるなら会うほうがいい。やりたいことがあるのならやってみるほうがいい。

人生は思ったより短く、いつ終わるのかも分からないから。

(昭和三十二年卒)

教員への道

島村 憲子

高校進学をめざし受験勉強をしていた中学三年の冬、私は中心性脈絡網膜炎という眼の病気になるしました。現在、この病気はレーザー治療や良薬もあり恐れる病気ではありませんが、六十年前の医学では失明にも繋がる心配な病気でした。

その後、無事、高校に入学したものの眼病は治らず、大宮の日赤病院に週三回の通院となりました。医師からは安静と休養を求められ、体育や学校行事等、全て見学、修学旅行も不参加になりました。

そんな私に教員の道が開けたのは、三年の担任A先生のご指導があつたからです。

授業時数の確保が心配される中、A先生は、埼玉大学教育学部小学校課程の受験を勧めてくれました。

眼を休めるため、長時間勉強をする事が禁止されていることを相談すると、苦手な数学については二冊の問題集を完璧にマスターするようにと、具体的に教えていただくことができました。また、冬休みには補習もやっていたいただきました。自信は無かつたものの先生の熱意に応えなければと思い、眼を

休めながら勉強し、なんとか大学に合格することができました。

大学に入学してから眼の病気に大きな変化はありませんでした。しかし、学生生活を楽しんでいた三年になって今度は網膜剥離が発病、東京大学附属病院に緊急入院手術を受けましたが、結果は再手術、入院は二ヶ月にも及びました。その間、同級生のIさんは、私の卒業に支障がないように幾つかの講義内容をノートに書き移したり、進捗状況を知らせてくれたり、常に支えてくれました。

今では、講義内容をメールで送ったり、リモートで授業を受けたりできますが、コピーも青焼きが主流の時代、彼女の苦労は並大抵なものではなかったと思います。

このお二人のお陰で私は教員となり、三十八年間の教員生活を送ることができたのです。

退職後、恩師のA先生とは偶然にも四十五年ぶりに人権擁護委員として一緒に仕事をする事になりました。これまでに何の恩返しもできませんでしたが、高校時代のご支援にお礼を述べると、先生は「担任として当たり前のことをやっただけ」と昔と同じように穏やかに笑っておられました。

(昭和四十四年卒)



老にして学べば…

小川 詠二

大学を卒業して今年は節目の五十年目、現在は専門の数学と趣味の書道を軸に、日々悠々自適とも思える生活を楽しんでいます。

よく人から、「数学と書道を？」と驚きの表情で言われます。しかし私は文字を書く際、数学の図形的要素を視点としており、とても役に立っていることを実感します。

例えば、①文字の概形をみる。②線の長さや傾き、方向をみる。③線の起筆、収筆の形や角度をみる。④線の交点が線をどう分けるかをみる。⑤文字の中心をみるなどの他、垂線を下したり、面積も考えたりして文字を観察します。

また、抽象性や美の追求も共通項でくれそうです。

さて私は現在、日本書道美術館講座「書道大学」二年生で、卒業の年となります。

講座内容は、漢字、仮名、写経などの実習と講義となります。月一回の日程ですが、その他にも宿題や課題も多く、全国の検定試験や展覧会への出品もあり、私にとってはハードなものとなります。しかも、この原稿を書いている十月には、卒業認定の筆記試験を終えたばかりでした。

試験内容は九月に発表され、書の歴史や古典について、楷書、草

書、変体仮名に直すことです。

「なぜ筆記テストがあるの？」と不安を募らせ、ネガティブな気持ちでいっぱいでした。しかし、テストに向けやる気のスイッチが入り楽しく充実した準備ができました。その成果をまとめます。

一つ目、書の歴史や古典について、何度読んでも内容が頭の中で定着しないのです。そこで、中国と日本を横に並べた自作年表を作成、能書家達の生きた年代を線分で表し関係が分かるように工夫したことで理解が一気に増えました。図の活用は実に効果があります。

二つ目、友人と共にテスト対策を実施、結果、自分の不足や課題も見つかり、その後の学習への意欲につながり、これも有効でした。

最後に、孔子の言葉に「学びて思はざれば則ち罔し、思ひて学ばざれば則ち殆し」があります。学ぶと思うは、両者が一体となつて生成発展していくと実感しました。

書の歴史を学ぶ中で、遣唐使が中国の書の文化(唐風)を持ち帰り独自の日本風(和洋)を加え、それを完成(仮名)させた人達の開拓精神、創造への挑戦に強い感銘を受け、感動したことです。

言志四録に「老にして学べば死して朽ちず」とあります。少しでもそれに近づくべく、自らの学びを続けていきたいと思えます。

(昭和四十九年卒)

入学から五十年

馬場 弘昭

昭和四十八年、埼玉大学に入学してから早いもので五十年がたちました。私は専攻が小学校教員養成課程でしたが、内部試験を受け中学と高校の免許も取得しました。小学校と中学校の教育実習を経て、小学校の教員を選びました。理由は、あどけない小学生に音楽や体育など多くの教科を教えることができるからです。

大学を卒業して東京都北区の小学校に赴任いたしました。校長に依頼され、いきなり六年生の担任を任されたことを今でも鮮明に記憶しています。六年生は陸上記録会や水泳記録会があり、児童と一緒に走ったり泳いだりしました。また当時(昭和五十三年)から私立中学校を受験する児童が多く、冬休みも内申書を書いたら終わっていたという状態です。右も左も分からない新卒でしたが、校長を始め教務主任、学年主任等かなり熱心な方ばかりで大変励まされていたきました。教員は授業の準備等、時間がいくらあっても足りません。平日は夜まで、土日も休まず授業探究に没頭いたしました。卒業式の時は、一年間全身全霊で打ち込んだため過労状態でしたが、何とか無事に卒業生を送り出すことができました。その

後、中学年、低学年の担任を経て七年がたち、文京区の小学校に転任いたしました。最初は三年生の担任でしたが、学級数の関係で音楽も担当いたしました。クラスの歌などオリジナル曲を作り、児童と毎日歌った事を覚えています。当初、専科は音楽・図工・家庭科でしたが、私に理科専科を引き受けて欲しいと強い要望があり、担任の後、理科専科を二年間受け持ちました。

北区・文京区と通算で十一年間教員をしておりましたが、平成元年三月に退職し、会計簿・法律・経済を学び、平成七年から税理士として歩むことになりました。

以来、二十八年間、スタッフと共に法人や個人の会計・税務の仕事に勤しんでおります。

新型コロナウイルスになる以前は、文京区の小学校・中学校等で租税教育を行い、多くの学校で児童・生徒に税金について学んでもらいました。現在は、新任の税理士に授業を担当してもらっていますが、子供から大人まで税について知っていたらこうと、日々活動しております。

最近では電子化の波が電子申告・電子申請を加速させていますが、AIを初めとする先端技術を上手に活用して、納税の効率化を図っていききたいと考えております。

(昭和五十三年卒)

教員生活を振り返って

野口 久男

現在、教育界では深刻な教員不足が大きな課題となっているとのことです。教員という職業に魅力を感じにくくなっているようです。私は、そんな話題を新聞やテレビ等で目にとると、自分の教職生活に思いを馳せることがあります。

私は、中学校、高等学校時代には、なぜか英語という教科が好きでした。

大学進学の際には、私大の文学部英文科や国立大学教育学部の中学校教員養成課程「英語科」を受験し、「将来は英語の教員になればいいな」という漠然とした希望をもっていました。その結果、ある私大の英文科に合格したのですが、残念ながら埼玉大学教育学部中学校教員養成課程「英語科」は不合格でした。しかし、(当時埼玉大学教育学部受験の際には、第二希望を記載することになっていたと記憶しているのですが)私は、第二希望に「小学校教員養成課程」を記入していて、小学校教員養成課程「広域専修」で合格という通知をいただきました。

ここで、少し悩みましたが、埼玉大学では副免で中学校と高校の「英語」の免許が取得できることを知り、経済的に負担の少ない埼

玉大学への進学を決めました。

卒業時には、何とか中学校と高校の英語の免許を取得したのですが、採用試験では、英語科の採用人数が少なく、英語教員への未練はありましたが、結局、埼玉県小学校教員の採用試験を受験し、採用されることになりました。

それからは、小学校の教員として定年まで勤めることができました。途中、市や県の教育委員会に指導主事等で勤務する機会もありましたが、小学校で多くの子供たちと出会い、充実した教員生活を送ることができ、教え子や教員仲間への感謝の念にたえません。

担任した教え子の中に結婚式に招待してくれる人がいたり、中学校の校長となって挨拶に来てくれる立派な人格者がいたり、時にクラス会に招かれたりと、今では、小学校の教員になり本当に良かったと思っております。また、一緒に働いた教員仲間とも時々お会いする機会があり、思い出話に花を咲かせています。元々中学校の英語の教員を希望していた自分が、いつしか小学校の教員の楽しさを味わっていたのだと思っています。

教員というのは、生涯にわたって多くの人とのつながりをもてる素晴らしい仕事だと、退職して五年経とうとしている今、実感しているところですよ。(昭和五十六年卒)

日々本物を創る

藤川 英子

学制頒布以来百五十一年目、昨年度、百五十周年記念事業を終え、学校教育目標も改正し、勤務校は新たな一歩を踏み出しました。

周年行事では歴代PTA会長が実行委員を務め、学校全体にプレゼンテーション。実現したいことを収集し、一つ一つの思いを形にしていきました。地域主体に力を最大限に発揮し、学校・家庭・地域の壮大なPBL(課題解決型学習)を実現。歴史と伝統は継承者がいないと存続しないこと、システム構築の重要性を再認識しました。

学生時代は苦学生でバイトづくめ。高校受験生の家庭教師をはじめ約十五種類を経験。大学では数学が学びたくてほとんどクラスにおらず、二刀流。サークルは少林寺拳法部、学部を越えて豪快な先輩に恵まれました。授業料免除制度も活用し、そのおかげで今があると云っても過言ではありません。

教育実習は附属小学校に五週間。深い教材研究と卓越した指導力で、子供と共に創り上げる、まさにプロフェッショナルな質の高い授業の連続。ここでの経験が、その後の長い教員生活の指針となり、「いやってやるぞ!」と生意気ながら思いました。本物を見ることは非

常に重要で、どんな子供にも、今は分からなくとも必ず活きる時が来るから「常に本物を」を大切にしていきたいと考えました。

ところが、教員採用試験は、突然の氷河期。小学校十八倍という難関。クラスで現役二名のみの合格でした。まさか一緒にやってきた仲間が別々の道とは。その友人たちの分まで頑張らねばという強い思いで教職に就きました。

学級担任として実践したいことは全てやりきってから、母校大学院ヘリカレント研修。音楽、とりわけ歌声は、学級経営と深く関わっているという自分自身の実践を理論に結びつけるとともに、世代の異なる貴重な友人を得ることができました。この間、子育ても介護も、無我夢中で乗り切りました。現在、昨年度から埼玉県音楽教育連盟長として、県内音楽教育の推進を担っています。大学時代の友人は「まさか、あのふくこが?」と思うことでしょう。そして、働き方改革の推進に鑑み、事務局をさいたま市及び県内東西南北の各地区に移管し、県全体の真の音楽教育の推進に邁進しています。

現勤務校では、最先端ICT教育、文部科学省「教員研修の高度化モデル開発校」として、教職員共々、子供ファースト、本物を創る授業の探究の毎日です。

(昭和六十一年卒・平成十四年修)

至上の喜び

駒崎 弘匡

学校現場では、教員の大量退職に伴う世代交代で、若手教員が急激に増加しています。その一方で、若手教員の離職の増加とともに、人員の確保で苦勞している学校も多いのが現状です。

私の大学時代は教員になりたくてもなれなかった時代でした。大学時代に仲がよかった仲間、全員それぞれが別の業界に就職をしました。その仲間とは定期的に会って情報交換ができる関係が今でも続いています。近年は今の学校現場の現状を心配してくれる仲間もいるのですが、教育実習での学校現場の経験しかない仲間から、「教員は年をとっても教え子との関係が変わらないところがいいところだよな」と言われたことがあります。

思い返せば、約二十年ほど前に担任した教え子から久しぶりに年賀状が届いたことがありました。その年賀状には、「本を出したので送ります」という内容が書かれていました。そして、数日後にその教え子から一冊の本が届きました。その教え子は、大学院で熊の研究に取り組んでいて、一つの研究がまとまったとのことで報告をしてくれたのでした。

その教え子は、小学生の頃からやさしい性格で動物好きでした。幼少期からの夢である動物博士の実現に向け日々邁進中とのことでした。夢に向かって力強く生きている教え子がいるということは至上の喜びでした。

教員の日常は多忙です。学習指導、生活指導、学校行事、保護者対応等。その他に外から見えない事務も多いです。分掌に応じた仕事もありますし、出張もあります。新たな学習内容や指導方法に対応していくために研修も必要です。そして、児童生徒の成長は必ずしも滑らかなものではないことから、児童生徒を見守り導きながら、教員もまた悩み苦しむことも多いです。それでも教員が頑張れるのは、気持ちどきどきする楽しさがあるからではないかと思えます。日々の授業やクラブ活動、部活動、学校行事等の学校生活で、児童生徒はどきどきする体験をしています。どきどきするたびに児童生徒は大きく成長していきます。教員も一緒にどきどきします。そして、児童生徒の伸びる瞬間に立ち会えることは、教員にとって至上の喜びです。

教職の魅力を感じて教員の志願者が増えること、若手教員の離職が減ることを願います。

(平成元年卒)

「音楽科教師」としての原点

佐藤 太一



佐藤 太一

教育学部 中学校教育教員養成課程
音楽専攻卒業
埼玉県立和光養護学校教諭

埼玉大学教育学部では、多くの教員免許状を取得することができます。これは、何の先生(小学校・中学校など)になりたいか、という際に選択の幅が広がります。私の大学での4年間は、教師になるための素晴らしい準備期間でした。大勢の人と出会い、多くのことを学び、自分の教育観は変化したものの「教師になりたい」という気持ちは一層強くなりました。埼玉大学では、教師になるための手がかりが、必ず見つかるはずです。

右は、「卒業生からのメッセージ」として、埼玉大学紹介パンフレットに掲載されたものです。

私の人生において、埼玉大学はなくてはならない存在です。学生時代、教育実習で附属小・中学校で御指導をいただき、教師になって初任校は養護学校勤務でしたが、公立中学校を経て、附属中学校で音楽科教諭として十一年、主幹教諭・副校長として三年間お世話になりました。

埼玉大学で様々な人と出会い、多くのことを学ぶ中で音楽に対する意識は大きく変化しました。「音楽は自分のためのもの」という考えから「音楽は全人類のためのもの」という考えに変わったのです。「二人でも多くの中学生に音楽の

素晴らしさを伝えたい。必修授業が中学校三年生で終わる状況の中、中学校の音楽教師は生涯音楽と豊かに関わり続ける人間を育てることができる最後の砦」ということを常に念頭におき、熱い気持ちで大学生活を送り、努力していたことを思い出します。

現行学習指導要領の全面実施から四年が経ち、次の学習指導要領改訂が見えてきました。この時期になると、いつも気になることがあります。それは、「音楽科」が必修教科として残れるか」ということです。次期学習指導要領では、子供たちの特性や関心に応じた教育の個別化が進むことが示されています。また、皆と同じことができるための基礎学力だけでなく、多様な他者と共生するための、「共生の作法」としての基礎学力を身に付けることが学校教育には求められます。

これは、目に見えない音楽を媒体として自己の知性と感性を働かせ、他者と協働しながら物事を捉えていく「音楽科」の目的と合致します。次期学習指導要領改訂は、コロナ禍で悪者になった音楽科の汚名を返上するチャンスだと期待しています。

これからも、御指導いただいた皆様に感謝し、全力で学び続けていきます。最高の音楽科教師になるために。

(平成十二年卒)

時代の変化に合わせる

南 登志正

私は、埼玉大学を卒業してから一年間の臨時採用期間を経て、教員採用試験に合格し、今年で教員歴十八年目となります。一般的にはベテランになるのでしょうか。しかし、昨今の目まぐるしい時代の変化においては、ベテランを名乗るのもおこがましいのではないかと思います。

私が勤める小学校の現場において、新型コロナウイルス感染症に対応するため、一気に進んだICT活用やオンライン授業、ブラックと呼ばれる教育現場の働き方改革を進めるために導入される、集金や連絡システムのアプリ利用、通知票の簡略化、ティーチングからコーチングマインドへの変換など、常に新しい技術や価値観が台頭してきているからです。それらに対応していくという意味では、私はベテランではなく、若手の方々と同じスタートラインに立っている、むしろ、今までの古い価値観が染みついていて分、マイナスからのスタートかも知れません。

小学校の現場に一人一台端末が配置され、国をあげてICTを活用していくというときに、「自分分はチョーク一本で授業をしてきた。これからもそれを変えるつもり

りはない。」とおっしゃる先生がいらっしやいました。今までの方法で成功体験を積んでいると、新しい方法を受け入れることが難しい方もいます。そういった方の今まで成し遂げてきた功績は認めつつも、新しい風を入れていく温故知新の精神で職場を調整していくことが今の自分の役割だと思っています。

私は、中学生の時には剣道部の部長を務め、高校生の時には空手部の主将を務める等、武道の道を歩んできました。剣道の稽古では真夏でも水分を摂らずに練習をしたり、空手では雪の中、裸足で稽古を行ったりしました。今の時代においてそのような練習の仕方はナンセンスであり、効率よく練習をこなしてレベルアップすることが求められています。二〇二三年の全国高校野球選手権大会で優勝した慶應義塾高校は、意味のない長時間の練習をせず、選手たちが自ら考えた効率の良い練習を行い、日本一の栄冠に輝くことができた。まさにそういった時代の変化を体現してくれた良い例ではないでしょうか。

私自身、これからも、変化し続ける世の中に適応するための柔軟さを常に忘れずにいたいと思っています。

(平成十六年卒)

恩師、仲間の存在

大関 さわ子

今年の夏に、教育学部家政専修(現生活創造専修)の恩師島田玲子先生をお招きし、当時の研究室の仲間で食事をを行いました。

「実験室に早朝集まって実験したよね。」「調理実習が楽しかったよね。」「大学近くのスーパーで、調理実習の買い出しをしたよね。」などと、当時の思い出話や近況報告を合いました。卒業後もずっとと教員を続けている人もいれば、企業に就職した後、教員になっている人もいました。親として、立派に子育てを頑張っている人もいました。それぞれの場所で、それぞれが活躍している話を聞いて、私も自分なりに人生を楽しんでいるかと元気をもらいました。

食事会の中で島田先生が、私たちが卒業の際にお渡しした寄せ書きの色紙を見せてくださいました。大切に保管していただき、このことで、胸がとても熱くなりました。と同時に、当時の光景がたくさんよみがえってきました。その中で、私が教員を本気で目指そうと思ったきっかけの一つを思い出しました。

大学三年生の時の附属中学校での教育実習の出来事です。研究室の仲間四人と同じ時期に参加しました。実習中に担当させていた

いた授業では、私は生徒を目の前にして緊張し、思うように授業ができませんでした。そんな中、授業を笑顔で展開し、楽しそうに生徒と学び合う友人の姿がありました。自分もこんなふうに頑張ってみたいと感じ、教員を本気で目指そうと決意したことを思い出しました。その後、採用試験の勉強を始めましたが、同時期に頑張る友人の姿は私にとって常にいい刺激となっていました。あの時の仲間の存在がなければ、現在の教員になれていないと思います。

卒業後は、中学校技術・家庭科の教員として採用され、現在は、新座市の中学校に勤務しております。二年前までは、ご縁があつて附属中学校に勤務していました。附属中学校在職中には、島田玲子先生をはじめとするたくさんの大学の先生方に支えていただきながら、授業研究を行わせていただきました。教員としての教科指導の専門性の大切さを改めてご教授いただき、大変勉強になる五年間でした。私にとって大学時代の恩師や仲間は、現在の私を支えてくれる大切な存在です。

来年度は、私たち平成二十一年卒業生の卒業十五周年同窓会が行われます。たくさんの方の同窓生や先生方とお会いできることを楽しみにしております。

(平成二十一年卒)

保健室を飛び出して

内田 貴美子

養護教諭として現場に出てから早十年。現在は、ご縁をいただき、四年前から埼玉大学教育学部附属中学校に勤務しています。

養護教諭を目指すきっかけとなったのは、高校時代の剣道部の監督の一言でした。勉強そっちのけで、毎日剣道に打ち込んでいた頃、進路選択で迷っているという「内田は養護教諭に向いていると思うよ。」と声を掛けてくださいました。

埼玉大学では、養護教諭養成課程や剣道部の先生と先輩方、そして多くの仲間との出会いがありました。そこでは、今の私に繋がる「人と関わること」の大切さを学ぶことが出来ました。

現場に出てみると、保健室には日々、様々な理由で子供たちが来室します。教室、授業、部活動など、あらゆる場面で輝いている子供たち。時には疲れてしまって、休みたくなるのも当然です。そんな子供たちですが、卒業式の後には「先生、学校に僕の居場所を作ってくれて、ありがとうございます。」と言いに来ってくれる子もいます。また、「保健室に来ると、なんだか元気になるんです。空気がいいのかな。」と言う子もいます。(それは、コロナ禍で手に入れた高級な空気清浄機のおかげでは?)

理由はどうであれ、保健室とい

う場所が、子供たちにとって安心できる場、心身ともに休むことができる場となっている時、保健室の役割や重要性を改めて実感します。

ところで、私はいつも保健室にいる訳ではありません。授業中に廊下を歩いていけば、「また散歩ですか?先生、暇なんですね。」と言われるほどです。

念のため弁解しておく、決して暇を持て余している訳ではありません。しかし、一歩、保健室を出れば、保健室に留まっていたら見るものの出来ない子供たちの表情や一面を知ることが出来ます。

最近では、銀木犀の花言葉を教えてくれる子、プロ野球の熱い場面を語ってくれる子、夕焼けを見ながら「綺麗だなあ。」と微笑む子に出会うことが出来ました。

何気ない日常の些細な一コマかもしれないけれど、こんなふうになさなやり取りを重ね、お互いを知っていくことが、「人と関わること」の素晴らしさなのではないか、と私は考えます。そして、その関わりが、今度は「人との繋がり」を生み出すのだと思います。

人間関係の希薄化が叫ばれる世の中ですが、現場で聞こえてくる「人との繋がり」を求める子供たちの声。だから、私は今日も保健室を飛び出して、子供たちとの繋がりを探しています。

(平成二十六年卒)

学び続けた先に

山岸 実桜

私は、現在音楽科の教諭として県内北部の高等学校に勤務しています。初任校で五年目を迎え、二週目の担任をしながら日々生徒との時間を過ごしています。しかし、慌ただしい毎日を過ごす中で、なかなかゆっくりと自身を見つめ直す時間というものがありません。五年目を迎えてしまったように感じています。そのような中で受講した五年経験者研修が、私にとって多くの気づきや学びを得られる貴重な時間となりました。

音楽科の教員は基本的に一校につき一人しかおらず、他校の先生方に相談はできるものの、直接顔を合わせられる機会も限られてしまっています。また、同じテーマや視点で授業や生徒対応について考えることも普段の学校生活の中ではままならず、授業改善にも苦勞をしていました。

五年経験者研修の中の教科研修では、勤務校の違う教員同士が二人組となって授業を作り、TTT形式で中学校の先生方や他校の高校生に対して実際に授業をしました。授業づくりの中で、互いの学校での苦勞や授業で行き詰ってしまっているところを話し合ったり、何より同じ目線で授業を作れたりしたことが、私にとってとても貴重

重でありがたい時間でした。また、同じ研修を受講している先生方の授業に対する工夫や視点が大変勉強になったと感じています。そして、たった三回という研修の中で、温かい言葉を私たちにかけ、「教える」ということをその姿で示してくださった指導主事の先生にとっても感謝しています。人柄の温かさや「わからない」という気持ちに寄り添う熱心さに感銘を受けました。

五年という歳月を過ごす中で、仕事にも慣れ、自ら企画して積極的に物事に取り組む場面が増えたように感じます。その一方で、自身の授業力や生徒との向き合い方に首をかしげてしまうことも多々ありました。今回の研修の中で「五年後、十年後の自分を作るのは今の自分であり、今後大きく伸びるかこのまま成長が止まってしまいかも今の自分にかかっている」という言葉を聞き、改めて忙しさ・慌ただしさを理由とせず学び続けることが大切だということを感じました。学び続けた先にどうなっていることが正解なのかはわかりません。正解はないのかもしれませんが、今の自分の力に胡坐をかくのではなく、謙虚さや誠実さを持ち、学び続けながら私自身も成長できる教員でありたいと強く思っています。

(平成三十一年卒)

卒業五×周年同窓会報告

卒業五十五周年同窓会

内容充実の記念同窓会

埼玉大学教育学部昭和四十三年卒業生

山下 武彦

私たちは昭和四十三年卒業生の同窓会は、初回が「卒業二十五周年記念同窓会」で、平成五年六月、浦和の「武蔵野会館」にて八十四名の参加を得て行われました。二回目は「退職時期同窓会」として、平成十八年十二月、県庁近くの「東晶大飯店」にて七十名参加のもとに開催されました。

令和二年度からは、教友会本部のお骨折りにより「卒業後五年ごとと同窓会を開催することができ、教友会から運営費等の補助を受けることができる」ことになりました。その実施該当年は、卒業五十五周年（七十八歳頃）を以て一応の区切りとすることとなりました。丁度その節目の年に該当する私たちは、早速発起人会を設けて準備会を開き、会員名簿で住所が判明する二百十四名に案内状を送付しました。宛先不明で返送されたはがきもありましたが、三十名の方から参加申し込みをいただきました。

令和五年九月十三日、残暑厳しい日でしたが、「ホテルブリラン

テ武蔵野」にて、埼玉大学教育学部昭和四十三年卒業「卒業五十五周年記念同窓会」が開催されました。十七年ぶりのなつかしい再開でした。開会に先立ち記念撮影、そして鬼籍に入られた三十四名（事務局配付資料）の仲間に黙祷を献げました。

幹事の新井功さんの司会により開会し、発起人代表の稲葉昭一さんが挨拶し、この会の趣旨及び歴史等を述べました。次に教友会顧問・事務局長の金子美智雄様から祝金・補助金が発起人代表に贈呈され、幹事の加藤忠邦さんの乾杯の発声の後、歓談となりました。食事中、この会の会員でもある金子美智雄さんが、ご自身所蔵の写真を私たちの学生時代にスポットを当てスライド編集し、浦和市や埼玉大学及び同教育学部の在りし日の姿や変遷を紹介くださいました。また、大学の卒業記念アルバムから、恩師の方々をはじめ私たちの若きなつかしい写真の数々をアップで映し出してください、会場は大いに盛り上がりしました。

食事が済むと「一人一言の近況報告」となり、二分以内でどの司会者からのお願いでしたが、中学校課程から小学校課程への順で、現在住んでいる所や日常取り組んでいること等について語るうちに話したいことが多く、二分ではとても足りませんでした。与えられた仕事に日々取り組んでいる方、ボランティア活動に励んでいる方、健康づくりでウォーキングやストレッチ等に汗を流している方、趣味で美術や音楽活動に打ち込んでいる方、家庭の事情で老々介護に尽くされている方等々、それぞれ自分のやるべきことに励んでいる

ようでした。

あつという間の二時間半でしたが、最後に教友会金子顧問から、会員名簿について、終身会員について、ホームカミングデーへの誘いについてのお知らせがあり、発起人代表から、この同窓会の会計報告と、残金は「埼玉大学基金」に寄付することの了承を得て、幹事の本田重次郎さんの閉会のことばで、お開きとなりました。埼玉大学基金のページに掲載されるということです。なお、この同窓会の発起人は、稲葉昭一を代表として、新井功、大菅建男、大岡一雄、大澤洋子、加藤忠邦、加藤俊明、金子美智雄、上前田徹郎、嶋野道弘、須田善博、沼田喜代、吉澤操、富沢武男、小森弘、小森信子、野沢優、藤間建夫、本田重次郎、山下武彦が務めました。

昭和43年3月卒業
卒業55周年記念同窓会



卒業五十周年同窓会

コロナ禍で開催が危ぶまれた中での

青春真っ只中の学生時代回想録

埼玉大学教育学部昭和四十八年三月卒業生 大岡 由男

令和五年十一月十一日、ホテルブリランテ武蔵野において、埼玉大学教育学部昭和四十八年三月卒業生の「卒業五十周年同窓会」が開かれました。当日は、前日までの季節外れの暑さと打って変わり、「木枯らし一号」が吹き荒ぶ曇り空となりました。コロナ禍の不安が拭いきれない中、ワクチン接種の徹底と患者数の減少に伴い、扱いが五類に移行し、何とか開催に漕ぎ着くことができました。出席者は、激動の人生をたくましく生き抜いた精鋭二十八名でした。

開会に先だつての記念撮影後、司会の小林博武幹事の発声の後、武田誠幹事の開会の言葉で開会しました。続いて、大岡由男代表幹事より開催の趣旨とこれまでの経過説明、苦労話、健康に恵まれ出席できた喜びと家族への感謝の気持ちが強調された挨拶がありました。続いて、ご来賓の教友会副会長大澤利彦様からご祝辞をいただきました。卒業五十周年という記念となる同窓会開催のお祝いとともに、学年幹事をはじめ、準備・運

営にあたった会員への慰労と感謝の言葉もいただきました。また、私たちが大学在学中の世相等にも触れていただき、当手を振り返るきっかけになりました。教友会として会員相互の親睦を図り、本会の目的達成に向けて「卒業五X周年同窓会」を開催できるよう取り組んでおり、まさに本日がその会の一つであることを話されました。十一月二十五日(土)埼玉大学で開催される「ホームカミングデー二〇二三」に触れ、多くの方が参加されるよう案内もいただきました。そして、「人生百年時代、ご出席の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。」との言葉で結んでくださいました。

次に、齋藤一雄幹事より乾杯の発声があり、すぐに気分は学生当時に戻り、あちこちで和やかな懇談が始まりました。何の遠慮も気遣いもせずに、青春を謳歌しているかのような笑顔があふれました。また、教職時代の苦労話、定年後の暮らしぶり、病に悩まされていること、孫の自慢話、年金生活の現状と課題など、枚挙にいとまがありませんでした。幹事への要望として、女性の参加者が少ないので参加しやすい工夫をしてほしい、集合写真やスナップ写真を送付してほしいなどがありました。本会は楽しさに溢れ、十二分に語り合い、青春的一幕を蘇らせることができ、大いに食べて飲んで、満足しました。このような楽しい会は何度やってもよい、五十五周年同窓会も絶対にやってほしいという要望も出され、万雷の拍手がわきました。

会計までもお手伝いをいただき、ありがとうございました。また、何といっても教友会の役員の皆様のご誠意に溢れた取組に感謝しております。同窓会名簿、案内状発送等の費用の援助など、細かなご配慮に心より感謝申し上げます。今後は、コロナ感染症の心配をせず、安心して参加できるようになることを願ってやみません。次回、卒業五十五周年同窓会にも大勢の同窓生が健康で明るく元気に集うことができることを祈念し、「卒業五十周年同窓会」の報告とさせていただきます。

懇談後、第一の締めが富田法昭幹事、中締めは中田泰容様、大締めは岩崎保様に締めてもらいました。一発締めから八丁締めと賑々しく盛大に締めることができました。最後に、中村幸一幹事により今回の同窓会幹事が紹介され、次回の開催に向け、更に大勢の方に出席していただけるよう、本日の参加者が二人以上の同窓生を誘って参加していただけると、もつとにぎやかな会になるのではないかと、閉会の言葉となりました。そして、

今回、このような盛大で楽しい同窓会が開催できたのは、幹事とともに、気持ちよくお手伝いをお願い受けていただいた方々の誠意によるものです。越田直子さん、芦野眞理子さんには、受付を始め、



退職時期同窓会

史上SAIDAIの同窓会

『円熟した絆が繋がった日』

埼玉大学教育学部昭和六十年三月卒業生 森 裕子

初冬とは思えない汗ばむほどの陽気となった令和五年十一月十九日曜日、鮮やかに染まった街路樹と美しく調和するブリランテ武蔵野の二階「エメラルドの間」において、「私たちの同窓会」は開かれました。

思い起こせば一年前、このブリランテで開催された教友会総会で顔を合わせた理事が、令和二年度にシステムとして確立された「卒業五X周年同窓会」及び「退職時期同窓会」に則り、令和五年度が開催の年であること、様々な制約を強いられたコロナ禍も収束の様相を呈していることから考えて、その日のうちに日程及び会場を決めたのでした。それから少しずつ準備を始め、母校の名に懸けて「史上SAIDAIの同窓会」にしよ

うというキャッチフレーズを掲げ、早々にSNS上にグループを立ち上げ、郵送の案内状に加え、SNSを駆使した「クチコミ」が広がり、八〇名に迫る参加の申し込みを得ました。これは、教友会の同窓会としては平均的な数字をかな

り上回るそうで、文字通り「史上SAIDAIの同窓会」が誕生しました。

会に先立って、まず記念撮影を行いました。受付後は、専攻・専修ごとの座席で、すぐに旧交は温められ、すでに会場の空気は盛り上がりつつありました。理事の杉田さんが「一列目は、松澤先生を中心に理事が座ってください。二列目は、身長がやや低めの人、三列目は、全部で四列なので、一列二十人目安ですよ」と声をかけると「はい」「わかりました！」返事もよろしく皆が集合写真隊形にスムーズに動いていきました。シャッターが押され始めると誰かが「緊張しているんじゃないの？」と声を発し、どつと笑い声が上が

り、誰もがこの会を心待ちにしていたうれしさあふれる撮影となりました。

嶋さんの再会の思いがこもった開会宣言、理事代表の中野さんから「四年越しの計画が今、実現しました。」と感極まりながらの挨拶の後、ご来賓である教友会会長

の松澤勇治様よりご挨拶をいただきました。はじめにたくさんの参加で開催されたことに御祝いと感謝の意が述べられ、「還暦を過ぎた皆さんは、『成熟』ではなく『円熟』した人生を歩んでいる。皆さん、『成熟』と『円熟』の違いはお分かりですか？」と問われました。

「『円熟』は、ただそこまで到達した『成熟』とは違って、行きついたところに『品格』や『ゆたかさ』を兼ね備えている」と教えていただきました。年を重ねることをこのように捉え、退職期を経たこれからの人生の道に新たな目標と希望を与えていただきました。

さて、理事の杉田さんがはじけるように乾杯の発声をした後は、テーブル内はもちろん、席を移動して歓談の嵐でした。理事が企画した、「専攻・専修ごとに前に出て代表が近況をスピーチする」場面では、どうしても内容が盛りだくさんになってしまい、司会の安部さん、来嶋さんが「誠に恐縮ですが、お時間は、二分以内厳守でお願いいたします！」とやむなく制す場面もありました。楽しい時間は、瞬く間に過ぎていき、理事の新井さんが万感の思いでメに立ちました。この時の会場の一体感はい言までもありません。閉会の言葉は、理事の私から、「今日、史上SAIDAIの同窓会で古くて

新しい絆が生まれました。これからも皆さんとつながって、円熟した十年後、二十年後にまた元氣でお会いしましょう。」と述べさせていただきました。帰り際には皆様から理事に「ありがとう」の言葉をたくさんかけていただき、無事散会となりました。

結びに「教友会」事務局の皆様、ブリランテ武蔵野のスタッフの皆様、本会を成功に導いてくださった皆様、多大なるご支援に心より感謝申し上げます。



卒業二十五周年同窓会

「お陰様」と「工夫」での開催

埼玉大学教育学部昭和六十三年三月卒業生 伊藤 秀一

残暑というには厳しすぎる、気温三十五度を超えた八月十九日、ホテルブリランテ武蔵野サファイアの間で、埼玉大学教育学部昭和六十三年三月卒業生の卒業三十五周年同窓会が開催されました。

しかしながら、その暑さをものともせず、元気に四十八名が集まり、記念撮影の後、開宴しました。五月に新型コロナウイルス感染症が五類へ移行したことや感染状況に鑑み、従来の形式に近い、対面による、マスクの着用を促さない形での実施です。

ご来賓である、教友会副会長の福島正美様から、教友会の取組や十一月に行われる大学のホームカミングデーでの講演会のご案内などのお話を、埼玉大学教育学部長の堀田香織様からは、大学及び教育学部の近況や教員採用に向けての取組などについてのお話を添えてご祝辞をいただきました。

幹事は学年理事の八名が務め、当日の受付を、小学校課程国語専修の原田正則さん、野口泰明さんにお手伝いいただきました。

遠方から泊を伴ったの参加者もあり、また、卒業以来の再会という同窓生も少なからずおりました。和やかな雰囲気の中で、旧交を温め合い、途絶えることなく歓談が

続きました。

歓談の途中でのスピーチの際には、各テーブルから一名の代表を選出するよう、直前にお願ひしたにもかかわらず、どのテーブルもスムーズに決まり、各代表者は、近況とともに学生時代の楽しく懐かしい思い出や意外なエピソードなどを語ってくれ、しばし三十五年前にタイムスリップしました。

会場となったホテルのスタッフの皆様には、事前の打合せや準備に当たって、丁寧なご助言をいただき、当日も細やかなご配慮と素早い対応とで円滑な進行にご尽力いただきました。このことも思い出作りに彩りを添えてくれました。あつという間の二時間半でしたが、ぜひ五年後に予定される次回同窓会にも参加したい、という言葉も多く聞かれる中、お開きとなりました。その後は、所属教科・領域等でまとまり、二次会に繰り出す様子も見られました。

今回は、全学年を通じて、初めての卒業五X周年同窓会ということで、前例のない中、前年度開催された退職時期同窓会を参考に、手探りで準備となりました。

昨年の七月十七日の第一回を皮切りに、本番直前の八月三日まで、都合六回の学年理事による打合せ

会議を行いました。

コロナ禍ということもあり、五回はオンラインによる夕刻の開催となりました。八名の理事とも日中は県内東西南北の各地域で勤務していることもあり、一堂に会することなく打合せできたことは、かえって効率のよい方法でした。打ち合わせを重ねる中で、いくつかの課題に直面しましたが、知恵を出し合い、対応策を見出すことができました。

たとえば、参加者の集約です。案内発送後、返信を待ち、その後の集約に時間がかかると、返信締め切り日を早めに設定しなければなりません。一方で、多くの参加者を募るためには、できる限り締め切り日を後ろに延ばす必要があります。そこで、参加・不参加の回答にメールフォームを活用すること、返信と同時に集約が可能となり、回答期限を当初の予定よりかなり後に設定できました。

その他に、会計報告書については、急遽の欠席者が出る場合もあるため、事前の作成が難しく、また費用がすべて確定した後の発送は煩雑になります。そこで、会計報告のデータを同窓会開催後に、期間限定でウェブ上に掲載すること、当日の事務負担軽減やペーパーレス化を図ることができました。加えて撮影した画像のデータも同じ場所に掲載しました。

今回の準備や開催に関しての成果や反省を、次回の開催時に生かしていきたいと考えております。

なお、今後開催を予定されている学年理事様で、参考にしたという方がいらっしゃれば、今回作成した資料等について提供させていただきますので、気兼ねなくお声がけいただければと存じます。準備・開催に際して、ご助言・ご支援くださった金子美智雄様はじめとする同窓会事務局の皆様、貴重な資料や情報をご提供くださった、石田耕一様をはじめとする令和四年度退職時期同窓会の学年理事の皆様へ深く感謝申し上げます。次回は、所期の目標である百名の参加を願いつつ、今回の同窓会の報告とさせていただきます。



卒業二十五周年同窓会

学生時代にタイムスリップ

埼玉大学教育学部平成十年三月卒業生 岡田 大助

令和五年十月二十八日、ホテルブリランテ武蔵野において、平成十年教育学部卒業生の同窓会が行われました。卒業以来、生活や仕事の拠点を埼玉県外に移す方も多く、それぞれの地で人生を送ってきた四十六名の仲間が、二十五年ぶりの再会を果たしました。会場のあちこちで再会を喜ぶ歓声が上がり、会場全体が学生時代にタイムスリップしたような雰囲気となりました。

思い起こせば、ことの発端は令和四年六月十八日に行われた教友会の定期総会でした。五十嵐淳さん(中数)と私(小社)が出席し、事務局から「卒業五X周年同窓会」事業のこと、私たちの代が令和五年度に開催予定学年であることの説明を受けました。二人で相談し、卒業二十五周年同窓会の開催に向け、動くことにしました。私が学理事代表、五十嵐さんが副代表を務め、一緒に準備をしていただく幹事として、新井飛鳥さん(中理)、川西浩之さん(小算)、岩田貴典さん(小社)、大木まみこさん(中音)、宮脇利枝さん(小

社)にご協力をいただくことになりました。準備会は五回ほど行い、その他、メールで連絡を取りながら準備を進めました。案内はがきに二次元バーコードを付け、参加の可否をオンラインで集計したり、住所が不明の方も多数いたので、幹事がつてをたどって連絡を取らせてもらったりして参加を呼びかけました。また当日、皆さんに楽しんでもらえるよう、会の内容を検討しました。新型コロナウイルス感染症が令和五年の春に五類扱いとなり、参加へのハードルが下がってはいましたが、幹事としては、どれくらい集まっていたか不安がありました。しかし、予想を超える多くの参加者に幹事一同ほっとしたことを覚えています。

当日は、司会を岩田さんが務め、開会のあいさつを宮脇さん、幹事長挨拶を私が行いました。そして教友会事務局より、教友会副会長の櫻井康博様をお招きし、挨拶を頂戴しました。櫻井様からは教友会や現在の大学の様子などをお話いただきました。また、この会の雰囲気によさについて触れていただき、私たちが楽しむ様子をとても喜んでくださいました。その後、乾杯の発声を五十嵐さん、歓談中に川西さんが中心となつてビンゴ大会を行いました。また埼玉大学公式マスコットキャラクター「メリンちゃん」が登場し、会場は大いに盛り上がりしました。新井さんから閉会の言葉があり、最後に記念撮影をして会が開きとなりました。ちなみに参加者でライングループを作り、それぞれの会の中で撮影した写真画像をアップしていただきました。画像とともに、同窓会で仲間と語らった楽しい思い出を持ち帰っていただきました。幹事としては、この会がきっかけとなって、同期の皆さんとのご縁が再び結ばれ、繋がっていくことを願っております。

最後になりましたが、同期との再会の機会を設けてくださり、同窓会を支えていただいた教友会の皆様に心より感謝申し上げます。

埼玉大学教育学部 卒業25周年同窓会



卒業二十周年同窓会

思い出深く、懐かしくて新しい

「二食」での同窓会

埼玉大学教育学部平成十五年三月卒業生 山田 真之

令和五年十月十四日土曜日、埼玉大学第二食堂にて、平成十五年三月卒業生の「卒業二十周年同窓会」を開催しました。

私たち学年理事は、「教友会史上初の卒業二十周年同窓会」と案内状を送りましたが、運動会や土曜公開の時期と重なり、二十余名の申込みでした。更に、インフルエンザ等の流行もあり、当日は十六名の「少数精鋭」での開催となりました。

ご来賓として、蓮見木予子副会長様にご臨席を賜りました。蓮見副会長は、私たちのために、当日資料「埼玉大学開学七十周年特集(教友第九十号)」をご用意してくださいました。そして、入学した平成十一年四月から卒業した平成十五年三月までの世間のトピックスや大学の事業を取り上げて、当時のことを思い出させてくださいました。「二〇〇〇年問題」を埼玉大学で迎えていたことは、すっかり忘れていましたし、「埼玉大学教育学部同窓会(教友会)」と名称変更があったことに、私たち

は「縁」のようなものを強く感じました。また、五年前の同窓会報告も持ちくださいました。その中の写真を見ると、確かに五年の月日が流れていたことがよく分かりました。

会が始まると、それぞれの現状や学生時代の思い出に大いに話が弾み、旧交を温めることができました。また、五年前に引き続き参加している仲間たちも、この五年でそれぞれの状況が大きく変わっていることにも驚きました。そのような中、同じような悩みを抱え、同じように毎日を頑張る仲間たちの言葉や姿には、とても勇気付けられました。

在学中は面識のなかった仲間たちも、同じ学び舎で同じ時間を過ごした同志として、話題が途切れることがありませんでした。埼玉県やさいたま市の教育に携わる仲間ばかりでなく、日本の各地で、それぞれの個性を生かした仕事や役割を果たしている仲間たちがいることが、とても心強く、元気が湧いてくる時間でした。

また、今回の会場は埼玉大学第二食堂、通称「二食」。私たちが在学していた時からリニューアルされ、とても「洗練された」印象を受けました。けれどもそこは、間違いなく私たちが通い続けた「二食」そのものでした。そこでの思い出話にも、大きく花が咲きました。「ここから大学生活が始まった」などと話す仲間もいて、大学構内での開催はとても雰囲気の良いものとなりました。なお、大学食堂での開催を検討される際は、埼玉大学生協の担当者にお問い合わせください。日時、場所、予算など、とても丁寧に対応してくださり、最終的には料理を一品一品選ぶことまでできます。その上、会費を抑えることもでき、よ



いところばかりです。

さて、そのように盛り上がった同窓会は、あつという間に終焉の時を迎えました。蓮見副会長から、「楽しい仲間たちですね」とお褒めの言葉をいただき、笑顔で二次会に向かった仲間たちと、「また五年後に会いましょう」と別れました。名残惜しく、それでも再会できた喜びは格別のものでした。

結びに、「卒業十五周年記念同窓会」を開催してから五年後に、こうして再会する機会をつくってくださった教友会の皆様に、深く感謝申し上げます。皆様のお力添えで、とても嬉しい時間を過ごすことができました。本会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



なお、少額ではございますが、「埼玉大学基金」に残金を寄附させていただきますことも含め、同窓会報告とさせていただきます。皆様、ありがとうございます。



卒業^{エックス}5X周年同窓会 開催等案内



1 卒業5X周年同窓会

(1) 卒業5X周年同窓会について

埼玉大学教育学部(大学院を含む)を卒業・修了した者は、卒業後5年ごとに同窓会を開催することができ、教友会から運営費等の補助を受けることができます。

開催を希望する該当年の学年理事は、相談の上、事務局に申し出てください。ただし、開催は義務付けるものではありません。

(2) 次の年度に同窓会の開催順にあたる学年理事は、教友会の総会にできるだけ出席し、開催に向けた説明を受けてください。

各学年の同窓会は、学年理事の方を中心に開催していただきます。

学年理事を受けていただける方は、現在の学年理事を通じて申込をしてください。

(3) 開催予定の前年度の教友会の総会に、学年理事の方にご案内を差し上げます。1名は必ず参加してください。

総会の際、開催について細かな説明をいたします。

各学年の学年理事については、本誌30～31ページをご覧ください。(ホームページにも掲載しています。)

2 詳しい実施要項は、教友会総会にて説明します。

○同窓会の開催にあたってお渡しするもの

- ・各学年の会員の宛名シール(ただし、令和3年度の会員名簿に氏名、住所の記載のある方)
- ・通知送料(往信・返信代)×人数
- ・通知印刷代
- ・当日の支援金 等 総額で10万円程度

3 詳細については、教友会総会の際に説明します。

卒業^{エックス}5X周年同窓会 開催年一覧表

●卒業5X周年同窓会は、下記の表のように実施することとし、開催予定の前年に、開催するかどうかを検討してください。

※(見方)平成28年3月卒業の人は、令和8年度に卒業10周年となる。

●令和7年度の開催予定の学年は以下のとおりで、令和2年3月卒、平成27年3月卒…昭和45年3月卒業の学年理事の方は、令和6年度内に、学年同窓会開催の有無の検討を進めてください。

卒業 5X周年	令和7年度 2025年	令和8年度 2026年	令和9年度 2027年	令和10年度 2028年	令和11年度 2029年	備 考
5周年	令和2年3月卒	令和3年3月卒	令和4年3月卒	令和5年3月卒	平成6年3月卒	卒業後 初回
10周年	平成27年3月卒	平成28年3月卒	平成29年3月卒	平成30年3月卒	平成31年3月卒	
15周年	平成22年3月卒	平成23年3月卒	平成24年3月卒	平成25年3月卒	平成26年3月卒	
20周年	平成17年3月卒	平成18年3月卒	平成19年3月卒	平成20年3月卒	平成21年3月卒	
25周年	平成12年3月卒	平成13年3月卒	平成14年3月卒	平成15年3月卒	平成16年3月卒	
30周年	平成7年3月卒	平成8年3月卒	平成9年3月卒	平成10年3月卒	平成11年3月卒	退職年齢延長により 2023年度～61歳 2025年度～62歳 2027年度～63歳 2029年度～64歳 2031年度～65歳 となる予定
35周年	平成2年3月卒	平成3年3月卒	平成4年3月卒	平成5年3月卒	平成6年3月卒	
退職時期	昭和61年3月卒	——	昭和62年3月卒	——	昭和63年3月卒	
40周年	昭和60年3月卒	昭和61年3月卒	昭和62年3月卒	昭和63年3月卒	平成元年3月卒	
45周年	昭和55年3月卒	昭和56年3月卒	昭和57年3月卒	昭和58年3月卒	昭和59年3月卒	
50周年	昭和50年3月卒	昭和51年3月卒	昭和52年3月卒	昭和53年3月卒	昭和54年3月卒	
55周年	昭和45年3月卒	昭和46年3月卒	昭和47年3月卒	昭和48年3月卒	昭和49年3月卒	最終回

●地方公務員の退職年齢は、2023年度から2031年度まで、2年に1歳ずつ段階的に引き上げることになりました。

●卒業35周年、退職時期、卒業40周年同窓会を開催するにあたっては、どの時期に開催するか学年理事会で検討願います。ただし、原則として3年以上間隔を空けてください。

令和五年度 教友会事業報告

本年度は年度の途中から新型コロナウイルス感染症が五類に移行となったため、感染防止に配慮しながら多くの事業が開催できるようになりました。

I 本部常任委員会を開催

五月十三日(土)午後二時～教育学部附属教育実践総合センターにて対面で開催しました。感染防止の対策を講じた上での開催となりました。

総会に向けた準備の会となり、役員・幹事など二十三名が出席。議案はすべて可決されました。

II 教友会総会を開催

六月十七日(土)午後二時～ホテルブリランテ武蔵野にて開催しました。

令和四年度の事業報告・決算報告を初め、令和五年度事業計画案・予算案等の審議が行われました。議事内容は総て承認されました。

なお、卒業五〇周年同窓会の関係では、来年度(令和六年度)開催の学年理事に対して、開催の予告及び開催の説明を行いました。

本部常任委員を初め、学年理事等合計七十九名の出席での開催となりました。なお、コロナウイルス感染症に配慮し、懇親会の開催は中止しました。総会については、本誌二十九ページをご覧ください。

III 教員採用試験対策

(一)教員採用試験対策講座の開催

これまで開催してきた対面での寄附講座は、以前購入した時事

主な内容

・教職教養
・一般教養
・小学校各教科
・中・高の教科内容
・教職面接
・教職論文 など

した。DVDの時間は一コマ九十分で、七十五コマから選択して視聴可能です。

来年度からは、終身会員の学生がアクセスして視聴可能となるよう検討しています。

(二)模擬個人面接の開催

教員採用試験二次試験対応の模擬個人面接が教友会から面接員を推薦して開催されました。

今年は、三日間、五教室を使用して開催。延べ百六十人の参加がありました。今年の採用試験の倍率は小学校では、埼玉県一・九倍、さいたま市二・二倍と低い倍率となりました。

教友会としては、後輩たちが教員採用試験で百パーセント合格することを願っております。

IV 事務局が移転し三年目

令和三年九月に埼玉大学教育学

部附属教育実践総合センター内に移転し、今年は三年目となりました。

新事務局での事業の推進、事務処理等順調に進めることができました。新事務局では、事務職員が常駐していないため、ご連絡、ご質問等は、メールかFAXでお願いしております。

V 鳳翔賞―顕彰事業―

教育学部では「力量のある質の高い教員」になることが期待される学生のうち、特に成績優秀な者を顕彰してきました。教友会は顕彰者に対してこれまで記念のレリーフを贈呈してきました。なお、第十七回贈呈式は三月に予定されています。

VI 埼玉大学ホームカミングデー

今年度のホームカミングデーも、埼玉大学と埼玉大学同窓会の共催により実施となりました。今年度は、埼玉大学は師範学校の前身である埼玉県改正局が教員養成を始めてから百五十周年になるのを期に、埼玉大学創基百五十周年記念の年として、各種イベントを実施。ホームカミングデーもその一つとして記念講演を行いました。

このことについての詳細は、二十五～二十八ページをご覧ください。

VII 新会報「教友」の二回目となる発行

教友会では、これまで卒業生向けの会報「教友」と学生向けの会報「学友」を発行してきました。

学友の発行については、大学の「教職支援室」が充実した運営がなされるようになったため、昨年をもって廃刊としました。

そのため、教友会からの会報は「教友」のみとなりました。

これまでも内容の一部をホームページに公開してきましたが、本号から全面公開することにしましたので、ホームページもご覧ください。

いつでもアクセスできますので、是非ご利用いただきたいと思えます。

VIII 学生終身会員に「会員カード」を送付

入学時に会費を納入し、終身会員として登録していただいております。領収書の送付という意味もあり、今年度は百九十名の方に「終身会員カード」を送付しました。入会率は学部生四十七パーセント、院生四パーセントで、平成十六年以降の入会率は七十四パーセントになっています。ここ数年低下傾向が続いております。いつでも入会できますので、周囲の方に勧めてください。

終身会員カードは、附属学校園で開催される研究協議会等に学生として参加する際必要となりますので、大切に保管してください。

埼玉大学ホームカミングデー 埼玉大学創基百五十周年記念事業

共催…
埼玉大学
埼玉大学同窓会

第十二回となる

本年度のホームカミングデーは、昨年度に引き続き、埼玉大学祭「むつめ祭」の時期に合わせての開催となりました。さらに、本年度は、埼玉大学創基百五十周年にあたり、その記念事業として特別記念講演が行われました。



創基150周年 特別記念講演の様子



・日時

令和五年十一月二十五日(土)

午後一時～

概要は、以下のとおりです。

第一部 歓迎会・講演会

会場 全学講義棟1号館301講義室

●学長挨拶 坂井貴文学長



●特別記念講演

講演一

演題 「埼玉県改正局・埼玉県師範学校から埼玉大学へ」

講師 埼玉大学同窓会顧問

金子美智雄氏



明治六年に浦和本陣に埼玉県改正局が設置されてから百五十一年間の波乱に富んだ内容の講演がありました。(講演要旨は二十六～二十八ページにあります。)

講演二

演題 「瑤沙原の日々 旧制官立浦和高等学校とその伝統」

講師 埼玉大学図書館長

井上 智勝氏



旧制官立浦和高等学校同窓会が刊行した記念誌『瑤沙原誌』をもとに、かつての浦和高等学校の日々の学生生活の様子などを紹介していただきました。

第二部 官立浦和高等学校記念資料室等見学ツアー

会場 埼玉大学図書館 三階

教育学部アーカイブギャラリー



第三部 懇親会

会場 埼玉大学 第一食堂

●各学部同窓会長挨拶



教友会
松澤勇治 会長

●学生表彰

本年度は懇親会も再開され、会の中で、学生表彰も行われました。



表彰される学生



懇親会の様子

埼玉大学創基百五十周年 特別記念講演 要旨 演題「埼玉県改正局・埼玉県 師範学校から埼玉大学へ」

埼玉大学同窓会・教友会顧問

金子美智雄氏

日本の教育史にとって、明治五年に頒布された「学制」は、憲法に匹敵するほどの大改革であった。明治政府は、発足して四年目に「文部省」を設置し、明治五年には学制の頒布となったのである。

明治五年 学制の頒布

明治五年は、廃藩置県の最中でまだ現在の埼玉県が確立していなかった時代である。学制は、六つの項目からできている、

- 一 大中小学区ノ事
- 二 学校ノ事
- 三 教員ノ事
- 以下 略

この中で、大中小学区の学校数については、

- ・全国 八大学区
- ・中学 二五六校
- ・小学 五三、七六〇校

全国に五三、七六〇校の小学校の設置は、現在の日本の小学校数約一万九千三百校と比較しても膨

大な校数である。
これを電話もなかった時代に短期間のうちにどのように伝達・情報収集したのか、不思議である。また、学制着手順序として、

- 一 厚ク力ヲ小学校ニ可用ノ事
- 二 遠ニ師表学校を興スベキ事
- 三 一般の女子男子ト均シク教育ヲ行ナウベキ事
- 以下 略

つまり、小学校の設置を急ぐこと、そして小学校の教員養成を行うことは喫緊の課題として、対応を最優先したと思われる。

埼玉県改正局の設置

慌てたのは、全国の各府県と思われるが、埼玉県（この時点では浦和・岩槻・忍各県）は、浦和本陣に役所を設置した。

時の埼玉県令（知事）は野村盛秀薩摩藩士、参事は白根多助長州藩士（共に在任中逝去）。

文部省に伺いを立てて許可されたのは師範

学校ではなく「改正局」。なぜ「改正局」だったのかについては定かではないが、文部省としては国内大学区にそれぞ



浦和宿日本陣表門

省としては国内大学区にそれぞ

れ官立の大学と、官立の教員養成の師範学校の設立を予定していたため、埼玉県にだけ許可できなかったものと思われる。また、埼玉県から申請のあった「改正局」は、官立としての許可とはならず埼玉県立での許可となっている。

埼玉県令から文部省に対して、御伺い書が提出されているが、明治六年一月十五日の申請に対して文部省から「伺之通」が出たのが明治六年一月十八日であった。



改正局設置伺

明治十年、文部省は以前に指定した官立の師範学校のうち三つの師範学校を官立から廃止し、併せて「教員養成ノ事業ハ漸次各公立学校師範学校ニ帰任スベキ事」を布達した。つまり官立ではなく県立で運営して欲しい旨の通達である。

そして文部省から「改正局」に對して、政府から派遣された教授陣は、すべて埼玉県以外の士族であった。この中に清浦奎吾とい



清浦奎吾教授



師範学校・医学校 発祥の地 記念碑



埼玉県師範学校 岸村校舎

改正局から師範学校の設置へ

「改正局」発足後、一年後には文部省に「埼玉県師範学校開設許可願」を申請して許可され、第二の地「岸村」で開校した。

のお陰で埼玉教育は本格始動したと言っても過言ではない。同時期、熊谷県では暢発学校で教員養成を開始している。清浦は明治六年風渡野小学校（現さいたま市立七里小学校）の大教授（校長）となり、後に埼玉県庁に戻って尽力。その後、東京に戻り政界に出馬して第二十三代総理大臣として日本の発展に貢献している。

現在の東和銀行浦和支店の一角に小さな記念碑があり、そこに書かれているのは「師範学校開校、医学校開校」の碑である。碑文には「明治七年この地で師範学校と医学校を開校した。しかし、第一回県議会において、財政



師範学校 稻荷丸校舎(鳳翔閣)

皇が東北、北陸、東海に行幸される際の最初の行在所(宿泊地)を下見に来て「まるで鳳が飛び立つが如し」として命名。これが「鳳翔閣」であった。

上の問題から「医学校は東京大学医学部に依頼するに如かず」とあった。
同年に教育実習校として附属小學校も設置された。しかし、手狭となり、郷學校の「高砂小學校」を附属小學校に充てて実習を行っていた」という記録がある。
医学校を設置しながら財政上の問題で放棄したのが「埼玉大学に医学部が存在しない第一歩となつてしまった」のかも知れない。

新築された鳳翔閣

岸村の師範學校は、何かと手狭になったため、稻荷丸(現在の埼玉會館の地)に移転が計画された。財政的にはかなり大変だったと思われるが、医學校を放棄したこともあり全精力を傾注して師範學校の新築にあたったものと思われる。

新築となった校舎の最初の訪問者は、時の太政大臣三条實美。現在で言えば内閣総理大臣。明治天



移築・保存された鳳翔閣玄関

明治十一年にこの地で三回目の開校となった。この建物は明治三十四年女子師範學校として開校したが、女子師範學校についても開校したが、後から二転三転し、開校までに十年近く費やしている。この鳳翔閣は、後に別所(現附属中学校)に女子師範學校が移転したあと、埼玉県立図書館として使用され、さらに埼玉會館が建設された時には、解体されて、現在はいま市立浦和博物館の玄関として保存されている。

これまで肝心の「創基」について、触れなかったが「創基」は、「大学のルーツとなった最初の起源に遡った創立のこと」であり、このことから「改正局」が埼玉大学の起源にあたることになる。
山口大学では、すでに創基二百年記念の式典を実施している。
その後、埼玉県師範學校は、再度の移転となるが、移転先は「鯛ヶ窪」(現さいたま市役所の地)であり、改正局の始まりから数えると、四回目の移転となった。面積はかなり広がっている。
師範學校としては広い面積を確保し、施設も充実していた。



埼玉師範學校當時の敷地



官立浦和高等學校當時の敷地

官立浦和高等學校の設置

大正十年には官立の浦和高等學校が今の北浦和の地に開校した。しかし北浦和駅は未だなかった。浦和高等學校は、官立として、大正十年十一月八日、日本で二〇番目に設立された高等學校。五千四百十八名の優秀な学生を輩出したが、昭和二十二年の学制改革により、廃校となった。東京大学への進学率は極めて高く、東京の一流に次いで高かったとのことである。

新制埼玉大学誕生の経緯

昭和二十二年、教育基本法、学校教育法が公布され、日本の小學校から大学まで大改革が始まった。旧制高等學校、師範學校は新制の大学への昇格も含めて、それぞれ大改革が始まったのである。

官立浦和高等學校関係では

昭和二十二年十二月十八日の県議会においては、「県下の実情に応じて漸次農・法・経・工・医学

部の総合大学の設立を決議。

浦和高等學校は東京大学と合併し、東京大学教養学部ジュニアコースとして東京大学教授会と合意した。

埼玉師範學校では

埼玉學芸大学案が浮上、昭和二十二年一月二十五日の「教育大学創設準備会」に出席以来、師範學校は新制埼玉學芸大学構想について検討を開始した。

埼玉青年師範學校では

東京農業教育専門學校を中心とする「産業教育大学」への合併や埼玉師範學校と合併するなら、深谷も残して欲しい等の願いが錯綜。

新制埼玉大学に向けて

昭和二十三年六月二十九日には、「埼玉県、各學校、文部省、東大の四者間で「浦和高校は東京大学のジュニアコースとして合併し、埼玉師範學校は四年生大学として昇格する」という二案で合意。
このあと「埼玉學芸大学構想」の設置に関する学生定員、教員数まで文部省に提出した。

以上の計画は、全て白紙に

上記の申請、計画は、昭和二十四年二月に開かれた大学設置委員会では否決された。GHQ(連合国総司令部)のCIE(民間情報教



文理学部の正門と校舎



教育学部の正門と校舎

新制埼玉大学の誕生
文理学部と教育学部で
 以上の経過を辿ったが、昭和二十四年五月三十一日、新制国立埼玉大学が誕生した。
 現在の埼玉大学が存在することは奇跡に近い経過を辿っている。浦和高校の跡地に文理学部（北浦和キャンパス）、師範学校の跡地に教育学部（常盤キャンパス）が誕生した。

（育局）の指示により一府県一大学の原則に従わなければならないなり、すべて振り出しに戻った。
 その後、浦和高等学校・埼玉師範学校・埼玉青年師範学校三者による「国立埼玉大学」の設置が本格始動することとなった。
 このとき、浦和高等学校の教員は東京大学に異動することがほぼ決まっていたが、当時の新関校長は、「東大に行きたい人は東大へ、しかし埼玉に残っていい人は是非残って欲しい」と説得、約七割の人は埼玉大学に残ったと言われる。

この正門も校舎も埼玉師範学校からそのまま受け継いだものである。

新たな課題への取組み 学部改組と更なる移転

埼玉大学は開学して十年後に新たな課題に直面した。
 埼玉県や浦和市から、工学部や理工学部の設置と、それに伴う土地の寄付の申し出であった。
 埼玉県と浦和市、それに大学と文部省まで関わって、新たな課題に対応した。移転先はいくつか上げられたが、大久保の地に決定した。続いて学部改組となったのであるが、工学部は先行して開学



創世期の久保大久保キャンパス

その後昭和四十年に大々的な学部改組となり、総合大学が誕生した。おかげで「オール・イン・ワン・キャンパス」となったのである。

北浦和キャンパスと 常盤キャンパスのその後

北浦和キャンパスの北側半分は埼玉県の所有となり県立美術館と北浦和公園として、南側半分は



官立浦和高等学校正門

浦和北公園と常盤小学校となり、さいたま市の所有となっていた。残念ながら昔の面影は何もなく旧制の浦和高等学校の正門だけが北浦和キャンパスに記念碑の如く設置され公園に



埼玉師範の記念碑

また、常盤キャンパスにはさいたま市役所が移転し、玄関の近くには、かつての師範学校の跡地を記念する碑が建てられている。この記念碑は、秩父の山奥から運んで来て教友会が設置したものである。

立ち並ぶ校舎・研究棟

大久保キャンパスは埼玉県唯一の国立大学として、そびえ立つ研究棟の数々、師範学校からの卒業生は、十一万人を数え、卒業生は産官学それぞれの場で活躍している。

野口源三郎氏は機関誌「教友」の中で「私は同窓であろうか」というタイトルで原稿を寄せている。野口氏は埼玉師範学校を卒業後、東京高等師範学校に入学、卒業後同校で教鞭をとり、埼玉大学に異動後は教育学部長をされた方である。「校名は違っても、校舎は違っても同窓と思われる」と。



現在の久保大久保キャンパス

埼玉県改正局設置以来百五十年。幾多の難問を乗り越えて、平和な現在がある。次は、埼玉大学創基二百年に向けて埼玉大学も同窓会も大きくはばたくことを祈念して止まない。

主な参考・引用文献

- 百年史 埼玉大学教育学部
- 埼玉大学五十年史
- 埼玉大学七十年史
- 埼玉県教育史 第三巻
- 教友会会報「教友」・会員名簿

ほか

令和5年度 教友会(埼玉大学教育学部同窓会) 定期総会 報告

・日 時 令和5年6月17日(土) 14:00~15:30

・会 場 ホテルブリランテ武蔵野 サファイア

司 会 引間 和彦 事務局次長

大澤 利彦 副会長

松澤 勇治 会 長

代表 清水 章夫 顧 問

1 開会のことば

2 あいさつ ○会 長

○顧 問

3 来賓祝辞 ・埼玉県教育局

・さいたま市教育委員会

・埼玉大学教育学部

市町村支援部

学校教育部

部 長 石井 宏明 様

次 長 田中 一秀 様

学部長 堀田 香織 様

《清水章夫 顧問》



《石井宏明 部長》



《田中一秀 次長》



《堀田香織 学部長》



4 議 事(議長:会則第10条により会長)

(1) 令和4年度 事業報告について……………以下 金子美智雄 事務局長

(2) 令和4年度 一般会計・特別会計 決算報告について

(3) 令和4年度 会計監査報告……………岡田 謙司 監 事

(4) 令和5年度 役員について……………P 30~31

会長より委嘱

○顧問・本部常任委員・幹事・事務局・学年理事

※本年は、役員改選の年にあたる。役員は原則2年とする。

※学年理事は、同窓会の開催が5年間隔となるため、本人の了解の上5年間とする。

ただし、学年理事が少ない学年については、申告により別途委嘱可能とする。

(5) 令和5年度 事業計画について

(6) 令和5年度 予算について

(7) その他

① 卒業5X周年同窓会について

② 会報「教友」の発行について

※議事は、提案どおりすべて承認されました。

5 そ の 他

(1) 埼玉大学ホームカミングデー 2023 について …………… P 25~28

令和5年11月25日(土)午後1時 大久保キャンパスで

・埼玉大学創基150周年記念事業も同時開催

(2) 卒業5X周年同窓会について(開催案内及び今後の開催予定)…………… P 23

① 令和5年度 卒業5X周年同窓会(昭和43年卒業ほか)について

② 令和6年度 開催予定 昭和44年卒業ほか11学年

6 閉会のことば

蓮見木予子 副会長



令和5年度 教友会 役員名簿 令和5年5月13日

役職	氏名	課程	卒年	氏名	課程	卒年	氏名	課程	卒年	氏名	課程	卒年
顧問	堀田 香織	学部長		清水 章夫	中	昭30	岩佐正二郎	中	昭37	金子美智雄	小	昭43
会長	松澤 勇治	小	昭50									
副会長	蓮見木予子	小	昭49	大澤 利彦	小	昭52	櫻井 康博	特	昭54	福島 正美	小	昭58
監事	木村 栄二	小	昭47	岡田 謙司	中	昭49	市村 和子	小	昭51			
本部常任 委員	岡本 健	小	昭33	大塚 彰	小	昭48	吉倉 清子	中	昭49	野口 英世	中	昭50
	野口 忠	小	昭50	秋本 文子	中	昭53	長谷河初男	小	昭53	石田 耕一	中	昭58
幹事	三浦 直行*	附中・副長		小谷 宜路	附幼・副長		神谷 直典	附小・副長		池澤 健	附特・副長	
	高橋 太一	附中・主幹		※幹事長								
事務局	金子美智雄	事務局長		引間 和彦	事務局次長							

教友会 学年理事名簿 (学年毎 五十音順)

卒業年	氏 名							
昭43	新井 功	稲葉 昭一	加藤 忠邦	金子美智雄	本田重次郎			
44	石井 昇	長嶋美知子	野口 淳一					
45	加々美健一	野原 晃	藤間 文隆					
46	大熊 光治	大塚 基司	丸山 綱男					
47	石田 拓喜	木村 栄二	久保忠太郎	清水 誠				
48	大岡 由男	大塚 彰	神山 則幸	小林 博武	齋藤 一雄	武田 誠	富田 法昭	
49	岡田 謙司	小川 詠二	瀧澤 重博	蓮見木予子	吉倉 清子			
50	井上 馨	梅山 健司	小谷野健史	野口 忠	野口 英世	平賀 健郎	松澤 勇治	
51	市村 和子	内田 明	平澤 香	若手三喜雄				
52	大澤 利彦	金澤 清久	関 好子	野津千恵子	千島 力夫	服部 純一	馬場 和久	
	山崎 和恵							
53	秋本 文子	高瀬 浩	長谷河初男	馬場 弘昭	山口 哲司	山本 耕司		
54	磯 真砂子	内田 道雄	角田 守	櫻井 康博	田辺 暁己	中村 健	中村 敏男	
55	田村 俊一	守屋 敏夫	吉田 睦代					
56	加藤 修	加藤 美幸	武井 悟	野口 久男	野村 剛	長谷川 博	山口 謙一	
57	清水 隆	松本 浩						
58	石田 耕一	関 克則	福島 正美	山田 晋治				
59	坂田 真澄	引間 和彦	真武 公司	吉野 寿一				
60	安部 恭子	新井 宏	來嶋実樹子	嶋 徹	杉田 勝弘	中野 浩義	平沼 智	
	森 裕子							
61	肥土 耕一	石井 宏明	金子 正	長江 清和				
62	安藤 義仁	五十嵐和彦	木村 浩	竹田 聡	中西 健二			
63	石崎 明子	伊藤 秀一	影山 葉子	高野 桂子	田島 孝志	福島みどり	本莊 真	
	吉田 元							

卒業年	氏 名						
平元	石原 博之	駒崎 弘匡	馬場 敏男	引間 陽子			
2	浅見 哲也	井上 雅史	筒井 陽子	椿 智絵	長島クミ子	山根 淳一	
3	牛久 裕介	上園竜之介	岸田 健吾	高野 達	野口 高志		
4	栗原 敏枝	白石徳一郎	野口千津子				
5	……………						
6	神田 卓也	下妻 淳志	杉澤 肇	細村 一彦			
7	大井 敏彰	塩崎 陽子					
8	古賀 玲香	馬場 雅史	綿貫 功				
9	八坂 和典						
10	新井 飛鳥	五十嵐 淳	岡田 大助	川西 浩之			
11	……………						
12	浅井 大貴	佐藤 太一	高橋容史子	二瓶 剛	橋本 慎也		
13	安藤 栄信	興野 邦孝	平井 悠一				
14	野口 勝義	松下 洋介	三浦 直行				
15	武久 浩之	森田 哲史	矢島 弘一				
16	杉山 直樹	南 登志正					
17	岩田 信之	島田 直也	仙石 大吾	高橋 太一	松村 洋彦	若村 健一	
18	笠原 俊	森川 大地	山本 孔紀	吉野 竜一			
19	内田 敦子	塩盛 秀雄	渡邊はるか				
20	五十嵐 巧	石高 吉記	坂井 貴文	杉山 愛	谷津 勇太	吉田みゆき	
21	大関さわ子	岸本 航司	関口 泰広				
22	阿部 健作	石原 良介	肥田 幸則	吉田 真梨			
23	藤田 明人						
24	安藤 健太						
25	……………						
26	内田貴美子						
27	三橋 博道	國料 樹					
28	大野 洋嗣	萩原 綾乃	関口 雄太	橋本 柊平	山本 恭平	渡邊 涼太	
29	七五三木侑乃						
平30	丸山 貴宏						
31/令元	秋元 祥広	山岸 実桜					
2	池上 直毅	池淵 大樹	落合 美沙	榊原 裕也			
3	岸 拓実	中村 優希	平野 幸奈				
4	田端 優一	三浦 脩	吉田 敏康				
5	天貝 光寿	小林 悠人	関 綸太郎	森山 紗帆			

※令和5年度新たにご承諾いただいた方に学年理事を委嘱いたします。

※学年理事を追加したい場合には、ご本人の承諾をいただいた後、卒業年・氏名・住所・電話番号等を学年理事を通じてご連絡ください。確認のうえ委嘱いたします（メールかFAXで、お願いいたします）。

事務局だより



●住所等変更がありました時には「登録内容変更」を

住所変更等登録内容に変更がありましたら、登録変更をお願いします。会報を送付しても、毎年かなりの方が宛名不明で戻ってしまいます。一度このようになりますと、以降の送付ができません。教友会のホームページ「住所等登録内容の変更」から手続きをしてください。

●会員名簿の申し込みについて

「令和三年度版会員名簿」の申し込み・送付が完了しました。その後問い合わせが多く来ております。まだ多少の余部が

在りますので教友会のホームページからお申し込みください。会員にのみ販売します。振込み用紙を送付します。

●紙面での会報「教友」の送付について

近年、多くの大学同窓会では、会報をホームページに掲載するようになりました。教友会でも本年度(令和五年度)から教友の紙面をホームページに掲載することになりました。(昨年も一部公開)来年度以降五年間については、終身会員のうち希望する方にのみ紙面での「教友」の送付を予定しております。同封のご案内についてご検討いただき、同封のはがきにて回答願います。

令和6年度
予定

◎総会 ◇令和六年六月十五日(土) 午後二時から(予定)

◇於 ホテルプリランテ武蔵野

◎卒業5X周年同窓会

◇詳しくは、本誌二十三ページ参照

◎埼玉大学ホームカミングデー 十一月下旬(予定)

◇於 埼玉大学(さいたま市桜区下大久保)

◇申し込み 埼玉大学ホームページに掲載予定

埼玉大学からのお願い ～埼玉大学基金への協力をお願いします～

埼玉大学では、「埼玉大学基金」を設け、皆様からのご寄附をいただき、種々の事業を進めております。

二〇一九年十一月より、寄附の目的区分をリニューアルしました。

・埼玉大みらい基金・冠奨学金基金・修学サポート基金です。

本年度も、多くの団体や個人の方々からご寄附をいただきました。心から御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

詳しくは「埼玉大学ホームページ・基金」をご覧ください。

編集後記

「教友第九十四号」をお届けいたします。

今年度はコロナ禍の制限や自粛が解かれ、多くの事業を実施することができました。「卒業5X周年同窓会」も、予定された全学年で開催され、楽しく有意義な時を過ごされたようです。その様子をお伝えするため、増ページといたしました。また、ホームカミングデーの「特別記念講演」も多数の参加者を得て、金子同窓会顧問に、貴重な資料をもとに埼玉大学の歴史を紐解いていただきました。

また、坂井学長様から、埼玉大学創基百五十周年に寄せて、先人の偉大な努力とこれからの教育界への期待を、堀田学部長様から、教員養成の現状や課題、将来への展望について玉稿をお寄せいただきました。埼玉大学

の更なる発展を期待したいと思います。

「同窓生の広場」では、様々な年代層から貴重な原稿をお寄せいただき、ありがとうございます。会員相互の交流を更に深めていただければ幸いです。また、今の大学の様子をお伝えすべく、「キャンパスライフ」では、サークル紹介に加えて、ゼミ紹介を新たに掲載いたしました。教師を目指す皆様には、「模擬面接を通して」や「後輩へのアドバイス」を生かしていただきたいと思います。これからは在校生・卒業生それぞれに有益な内容となりますよう、紙面の一層の充実に努めてまいります。

末筆となりましたが、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

発行者 教友会(埼玉大学教育学部同窓会)

事務局 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター内

事務局長 金子美智雄

〒三三〇〇〇六一 さいたま市浦和区常盤六一九一四四

FAX 〇四八(七六七) 八七〇三

E-mail: kyoyukai.saitama@gmail.com

教友会ホームページ「教友会・埼玉大学」

印刷所 望月印刷株式会社

〒三三〇〇八五四 さいたま市大宮区桜木町

一―一九五一 大宮ソラミチK.O.Z 十一階

電話 〇四八(七四二) 九三〇〇

FAX 〇四八(六四二) 五〇〇五

